

第63回国民体育大会

チャレンジ! おおいた国体

山岳競技報告書



平成20年10月3日(金)～10月5日(日)

竹田市

大分県山岳連盟

目 次

1. あいさつ

大分県山岳連盟	会 長	首藤 宏史	1
社団法人日本山岳協会	競 技 委 員 長	高山 雅夫	2

2. 講評及び競技報告

講評	審 判 長	滝内 壽一	3
リード競技	主任審判員	安形 康	4
	副主任審判員	清水 剛	6
ボルダリング競技	主任審判員	山本 和幸	7
	副主任審判員	瀧石 裕一	9

3. 競技会記録

総合成績 得点表	13
成年男子 リード競技 結果	22
成年男子 ボルダリング競技 結果	25
成年女子 リード競技 結果	29
成年女子 ボルダリング競技 結果	31
少年男子 リード競技 結果	33
少年男子 ボルダリング競技 結果	35
少年女子 リード競技 結果	37
少年女子 ボルダリング競技 結果	39

4. 運営各部報告

総務部、競技部、輸送・宿泊部	41
----------------	----

5. 競技会準備経過概要

47

1 あ い さ つ

ご あ い さ つ

大分県山岳連盟
会長 首藤 宏史

第63回国民体育大会（チャレンジ！おおいた国体）山岳競技大会は、竹田市の大分県立竹田高等学校山岳競技場で、10月3日（金）から5日（日）の3日間開催されました。全国から参加されました選手・監督並びに役員の皆さんのあたたかいご協力をいただきまして無事終了することが出来、感謝しています。

3、4日は好天でしたが5日は雨となり、リ－ド競技の運営が心配でしたが、はげしい風雨にならず多くの観衆の応援もあり、全競技を終えることが出来ました。

今国体より、山岳競技はリ－ド競技とボルダリング競技の2種目となり、国体改革年でもありました。特に、ボルダリング競技は初めての種目であり、競技内容や運営方法など準備に心をくわいて参りました。また、簡素化も大きなテーマでしたので、このことに努めながらも、おもてなしには気を使ったつもりです。

二競技とも選手の皆さんの練習の成果を存分に発揮された素晴らしいパフォーマンスや、セッターの解説を含めたアナウンスで観衆の皆さんも競技内容を充分理解され、一体感を味わうことが出来、盛り上がったと思っています。

選手の皆さんはこの国体を通じ、得られました友情の輪をさらに深めながら、切磋琢磨して技量を高めていかれることを期待しています。

施設が竹田高校内で会場が狭く、宿舎も少し離れた久住高原で、選手や役員、来場者の皆さんにご不便をおかけしましたが、輸送や競技運営はおおむね順調に進めることが出来ました。観衆も多く来て頂き、うれしく思っています。本当にありがとうございました。

全体を通して反省すべき点もいくつかご指摘頂いていますので、整理しまして後催県に申し送りたいと考えています。

最後になりますが、この大会開催にお力添えを頂きました、大分県、竹田市、チャレンジ！おおいた国体・竹田市実行委員会、大分県立竹田高等学校、（社）日本山岳協会、競技・運営役員、竹田高校の補助員、竹田市のボランティア等関係者の皆様に深く感謝申し上げまして、お礼のごあいさつといたします。

チャレンジ！おおいた国体山岳競技会を振り返って

競技委員長 高山 雅夫

第63回国民体育大会チャレンジ！おおいた国体山岳競技は、10月3日から10月5日の3日間、大分県竹田市を会場に行われました。大会直前に台風が発生して九州に近づいた時は心配しましたが、大きな影響もなく竹田市の皆様の大分国体開催に対する情熱が力となって大分国体山岳競技が無事終了できましたことにあらためて深く感謝申し上げる次第です。ありがとうございました。

さて、今年の大分国体は競技内容での大転換を迎えた大会でした。「縦走競技」が昨年の秋田国体で長い競技の歴史を閉じ、新たに今年から「ボルダリング競技」が導入され、昨年までのクライミング競技の名称も「リード競技」に変更となりました。選手も3名1チームから2名1チームになり、国体スリム化の流れの中で選手、役員93名が減員となりました。さらに今年から審判員やルートセッターが日山協公認資格を持たないとジャッジやルートセットができなくなったため、厳しい資格審査に合格した審判団やルートセッター団によって、素晴らしい審判業務やルートセットを行うことができました。また、競技役員や運営役員の方々も全員「競技運営員」資格を取得して頂くことにより、国体山岳競技を熟知したスムーズな大会運営ができました。

また、大会会場では美味しい「だご汁」やドリンクのサービスをはじめ、地元竹田高校でボランティアとして補助役員をして下さった高校生の皆さんの笑顔あふれる仕事ぶりが、会場を和やかな雰囲気包んでくれました。大分県の方々の一生懸命で暖かい気持ちがとても嬉しく感じられました。各会場でも県内外各地から大勢の方々が朝早くから応援しに来て下さり、連日超満員の熱気であふれ競技は大いに盛り上がっていました。国際大会で活躍しているトップクライマーも数多く参加して頂き、その素晴らしいパフォーマンスは会場の皆様に心に残る感動を与えてくれたのではないかと思います。選手の皆さん、いつものコンペでの個人競技とは一味違う「団体競技」としての国体の感想はいかがでしたか？思っていたよりも選手が楽しそうに都道府県対抗戦をしていたように感じたのは私だけだったでしょうか。年に1回、日本各地からクライミング仲間が集まってリード競技とボルダリング競技の腕を競い合う機会がようやく作れたことで、長年の国体改革の苦勞が報われたような気がしています。まだまだ修正すべき部分はあろうかと思いますが、選手が出場したくなるような大会を今後も目指して改革を進めていきたいと思っています。

これからの国体は、オリンピックや世界選手権大会、ワールドカップ、アジア選手権大会等の大会に通じる重要な橋渡し役の中に位置付けられてきています。山岳競技のより高い競技性を追求するためにこれからも努力して参りますので、より一層のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、今まで長い間ご尽力頂きました地元竹田市実行委員会、大分県山岳連盟の皆様方、また全国から集まった選手・監督、審判団や運営役員の皆様のご支援とご協力に対し、心より感謝と御礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2 講評及び競技報告

審判長講評

審判長 滝内 壽一

第63回チャレンジ！大分国体山岳競技が「これから未来へ 新たな一歩」のスローガンのもとに大分県立竹田高等学校を会場に開催されました。心配されていた大雨台風15号も早く通過し、競技には影響せず胸をなでおろしました。ただ大会準備の大詰めでの影響は大きく、大分岳連、地元実行委員会、ルートセッターのご尽力に心より感謝申し上げます。

さて、今大会より縦走競技が廃止され、ボルダリング競技が導入されました。クライミング競技への完全移行に伴う新たなルールの作成、審判員制度、セッターの認定制度等々暗中模索の中から出発し、本大会で初めて日の目を見ることができました。関係諸氏、選手、監督の皆様にご感謝申し上げる次第です。

競技内容ですが、持久系のリード競技、瞬発系のボルダリング競技の両方に素晴らしいパフォーマンスを発揮したチームが数多くありました。リード、ボルダリングの両方で決勝進出を果たしたチームが少年女子で8チームすべて、成年女子、少年男子が7チーム、成年男子が4チームありました。その中で、成年男子宮城県チーム、成年女子茨城県チームがリード、ボルダリングの両方の種目で第1位となりました。また、個人でも少年男子新田選手、少年女子太田選手が両種目で1位となり、厳しい日ごろのトレーニングの成果を発揮してくれました。

まずリード競技ですが、成年男子は、予選グレード5.13a、完登者8名、決勝5.13b/c、完登者1名。世界チャンピオンクラスの選手も登場し、大分の方に山岳競技の面白さを伝えてくれました。成年女子は、予選グレード5.12b、完登者2名、決勝5.12c/d完登者1名。全身のバランスや移動のテクニックを使い、最後の一手まで粘り続けました。日本の女子チームは世界の中でも強豪です。世界チャンピオン級がそろった今回の大会は、世界トップレベルの競技を見せてくれました。少年男子予選グレード5.12b/c、完登者3名。決勝5.13a、完登者2名。この種別は世界の中でも強豪です。ただ、まだ登り方が荒削りな選手も見受けられましたが、若さでそれをカバーしていました。彼らの将来の明るいことを願いたいと思います。少年女子予選グレード5.11c、完登者3名。決勝5.12a、完登者なし。大歓声に背中を押され、成績を伸ばしていった選手達にとっては、大分の皆さんの声援が心強いものだったでしょう。自分の限界まで力を出し切っていました。

どの選手・監督の皆さんも、生涯にわたって山岳競技を愛し続け、自らを高め続けてくださることを強く願います。

次にボルダリング競技についてですが、参加選手の顔ぶれは、ワールドカップをはじめ、国内外の大きな大会で活躍する選手も多く、レベルの高い大会となりました。他県の選手にとっても、有力選手の登りを直に見ることのできる、また、有力選手と同じ課題を登ることのできる貴重な機会となったことと思います。

このボルダリング競技は、リード競技に比べ国内での競技の歴史が浅く、さらにIFSCルールに準拠した競技会が開催されるようになって5年にも満たないものです。さらに本大会では、IFSCルールにアレンジを加えた部分が多く、細かな部分はこれから実際の大会での運用を経て固まっていくものと思います。また、本年から導入の競技ということで、競技運営側としても不慣れな部分もありました。選手を派遣される各都道府県においても、対応に多くの点で苦慮されたことと思います。ともあれ皆様のご協力で大過なく競技を終えることができたことに御礼を申し上げます。山岳競技に新た

な1ページが加わったことと確信いたします。

選手の皆さんは、本大会を目指して大変な苦勞を日々重ねてきたものと思います。その結果として輝かしい成績を残した選手、残念ながら目標に達しなかった選手、思いはそれぞれだとは思いますが、選手の皆さんの競技にかけるあつい情熱は、多くの観客や地元の方々に感動や勇気、希望を与えてくれたものと思います。

最後になりますが、審判団、競技役員一同は選手の皆さんが、チャレンジ！おおいた国体で日頃の成果を十分に発揮できるように全力で取り組んできました。そして、長年にわたる国体準備から取り組んでくださった竹田市実行委員会、地元住民の方々、竹田高校の方々、大分県山岳連盟の方々にお礼を申し上げて審判長の講評とさせていただきます。

リード競技

主任審判員 安形 康

昨年の秋田国体報告書で、クライミング競技（今年のリード競技に相当）主任審判員だった森下健七郎氏（日山協、埼玉県）は次の表現で主任審判報告を結びました。『過去の国体・C競技の中で「競技運営が一番上手く行ったのではないかと自負できる大会運営だったと思っています』（秋田わかずぎ国体山岳競技報告書、p22）

大分大会のリード主任となった私はこの表現を思い出し、「ならば今年も同じことを言って見せよう」と気合いを入れたものです。さてその結果はどうだったのでしょうか。競技内容自体は審判長のコメント文にあるので、この文では競技運営の面から報告してみたいと思います。

今年度の変更点

今年度はボルダリング競技の導入という大きな出来事があったわけですが、リード競技にも若干の変更点がありました。

まず一つはチーム得点の計算方法です。前年までは手数自体が得点になる（ただし完登を50点にスケールし、2選手の得点を合算してチーム得点とする）方式だったのですが、今年は「全選手の個人順位の確定」「選手毎に順位得点の算出」「それを合算してチーム得点とする」「その小さい順に上位」という方式になりました。これはいささか分かりづらいのですが、リード競技の場合は「一手」の価値がどこでも同じというわけではないという点が重要であるため、このような方式にしたものです。なお、この順位得点を用いる方式は、IFSCルールにおいて予選が2ルートである場合の予選順位計算方式を取り入れています。ただしIFSCルールでは2ルートの順位得点を掛けてそれが小さい方から上位になりますが、国体では二人の順位得点を加算しているという点が異なります。おおざっぱに言えば、IFSCルールではどちらのルートで傑出した成績を挙げたほうが有利になるのに対し、国体方式では両者がまんべんなく好成績を挙げたほうが上位になりやすくなります。これは両者のコンセプトの違いから来るものです。

つぎに、これはリードに限らないのですが、平成19年度から本格的に「審判員」「競技運営員」「ルート・セッター」の認定制度が施行され、国体レベルの競技の主任審判、チーフルートセッターを務められる資格（A級審判員、A級ルート・セッター）が定められました。初年度ということでA級取得者はごくわずかな人数にとどまったのですが、そのため、長らく日本のフリークライミング大会を率いてきた北山真・山本和幸の両氏、さらに数少ない国際審判員である不肖わたくしまでもが参戦す

るという、日本のクライミング審判・運営オールスターチームがついに国体に参加したという点も、表舞台からは分かりづらいですが大きな変化でした。さらにはルートセッター陣までも日本を代表するベテランから新進気鋭の若手までが勢揃いし、大会運営スタッフは「いつも一緒にやっている、腕が確かで気心の知れた」メンバーを中心に行うことができました（もっとも、それだけに無様な大会にはできないというプレッシャーもかかったわけですが）。この「A級」スタッフチームは、たとえばテクニカルインシデント時対応やアピール（抗議）対応などの時に威力を発揮しました。同時に、選手も日本代表チームメンバーなど一線級が多く集まり、観客は高いレベルのパフォーマンスを存分に堪能できたと思います。

スタッフに感謝

とはいうものの、これらスタッフだけで大会が成り立つ訳ではありません。大会には本当にいろいろな人がいろいろな部署で確実に仕事をこなすことが必要です。また、全体の組織運営・通信連絡手段の確立などこまごまとした仕事がたくさんあります。大分の方々は、原勇人さんを中心としてよくルールや業務プロセスを習得し、本番でも本当によくやってくれました。6月のリハーサル大会で指摘し、しかし内心「これは改善は無理だろう」と思っていたこと（たとえばコールゾーンへの経路の雨対策）が当日見事に直っていたときには唖然とするとともに感動したものです。また、大きなイベントならばつきもののトラブルにも臨機応変に対処し、大きな問題に発展する前に対処してくださいました。また、リハーサル大会で確定した業務プロセスを本番一日目に変えた部分があった（選手荷物の搬送など）のですが、そこも柔軟かつ正確に対応してくださいました。最終日は表彰式に出席するためかなり留守をしました。しかし主任審判の私が居なくとも競技は何事もなく進行していました。ここまでのスタッフに恵まれることはそう多くはありません。大分の方の組織づくり・指導のたまものだと思います。大会を終えた私の本心は、「またこのスタッフで大会をやりたい」ということでありました。本当にありがとうございました。

竹田市、そして観客に感謝

最終日は雨でした。「これで二年連続完全晴天はなくなったか」と残念な思いがいたしました（前年は三日間好天）。ただし救いだったのは雨が最終日だけだったということです。これが初日だったら臨機応変な対処は難しく、また試合が長い（初日は成年男子予選47チーム連続）ことから集中力の維持が大変であるため、事故やミスなど不測の事態の可能性が増したことでしょう。とはいうものの、花形である決勝ラウンドが雨により観客僅少で行われるのは残念だと思っていました。が、何と観客席は満員ではありませんか。初日二日目と変わらぬ大応援が雨の中でも聞けたことは感動的です。また、雨中の試合ということで選手の安全を守るために靴底を拭く布が大量に用意されたのですが、それはどうやら雨中の試合を余儀なくされた市内他競技の会場から回ってきたものもあるとのことでした。それを聞いたときには、試合中止など残念な結果に終わった他競技のスタッフの分までがんばろうと思ったものです。その結果競技は大きな事故も中止もなく無事終わり、地元竹田高校の山岳部員が少年女子の部で3位入賞するなどめざましい活躍もあってか観客の皆さんも大喜びでした。屋外競技となったリード会場は観客の声が少ないと本当に寂しい雰囲気になる不安がありましたが、今回は地元アナウンサーやルートセッター解説陣の活躍もあって大変に盛り上がりました。

最後に、多少、問題点

選手や監督からのアピールに関してはいささか首をひねるような内容のものもあったということは書いておきたいと思います。選手は完全に集中していて落ちた瞬間を正確には覚えていない場合があり、個人としては次のホールドを「つかんだ」と記憶していてもビデオを見るとタッチすらしていな

いという例がありました。そういう例があるということを監督はよく選手に教育する必要があるでしょう。また、タッチ（-）は正しい位置を正しい向きからさわったときのみ認められる、プラスは正しいアクシスに沿って有効なムーブを行った場合のみ OK、傾斜がきつい部分やトラバースでは身体がクイックドロウの下側のカラビナより上（前）に行ってしまうても OK な場合がある、といった基本ルールをいま一度徹底する必要があるということも感じました。これを理解していない選手は意外と多かったものです。

二人ペア戦として華々しく国体に登場したボルダリング種目とは異なり、リードはひとりひとりの選手の孤独の戦いとなります。オブザベーションやアイソレーションでのチーム会議が勝負を決めるということ、また体操競技の団体戦のような戦いではある、というふうに説明はしましたが、ボルダリングに比べるとややチーム戦色が薄いという印象を持った人もいたようです。監督や選手がお互いにどの程度コミュニケーションを取って良いのか（今年は、40秒オブザベーション中の選手間会話以外は、競技中には具体的な指示は一切禁止）という点は検討事項になるでしょう。

おわりに

さて、冒頭の問いに関しては、やはりこれは書いておかねばなりません：「昨年に引き続き、これまでの国体でもっとも成功したリード競技でした」来年もまた今年のような印象的な国体を開けることを祈りたいと思います。

来年への申し送り事項

- ・監督会議には主任審判だけが出ればよい。監督会議の裏で最終会場検分を行い、問題点修正に努める必要があるが、その際責任をもって指示を出せる人（副主任審判クラス）が必要であるため。
- ・競技と表彰式が重なってしまう場合、成績発表・講評は主任審判員以外が行ったほうがよいかもしれない。個人的には講評を述べる場は好きなのだが、競技運営・判定に専念する方がやはり本務であろう。
- ・手数を成績にしない限り、成績表に「完登ポイント」表記は不要。むしろ完登は完登と表記する。
- ・リアルタイム成績表示システムを何とか作れないだろうか。壁の横にあり、選手が1手進むたびに大きな数値（観客から見える）が31、32・・・と上昇するイメージである。審判員が数字の上げ下げを司るボタンを持ち（片手で扱えることが必須）手動で操作すればよい。
- ・前述のように、判定に関するルールブックの知識を今一度選手監督にしっかり伝える必要がある。
- ・「班」の設定を続けるならば、そのサイズはルートクリーニングが入るごと、具体的には16チーム（以上）のほうがよいと思われる。その際終了選手待機場所の確保が難しいと思われるので、会場内待機させておいたうえで、必要に応じて（クリーニングのときに）集合を呼びかけるのがいいであろう。

リード競技

副主任審判 清水 剛

おおいた国体を振り返って、これまで各地で開催されてきた国体と大きく違うところは、いかにスリム化するかを意識してきたことである。その理由は、山岳競技も縦走競技からボルダリング競技への移行の年であり、また、国や県、地方公共団体の財政難の折、補助金等の削減による経費の節減など様々な課題を抱えての開催であったからである。このような背景により、リード競技の組み立てに

あたり、競技の省力化をいかに進めていくかを念頭においてきた。

その一つに、マニュアルの簡素化を行った。これまでのマニュアルは、かなり分厚い冊子となっており、同じような内容が重複し掲載されていた状況にあった。これを少しでもわかりやすくするため、表の作成や作業内容の洗い出しなど、考えられる範囲でマニュアルの作成を進めてきた。

これは、国体山岳競技規則の大幅な改正がなされ、競技役員の質の向上に向け、クライミング競技審判員資格が制度化されたことが、簡素化の大きな要因となった。さらに、競技役員が、競技を熟知し、「何をすればいいのか」自分で行動のできる状態であれば、具体的なマニュアル作成の必要はなく、そのために簡素化が可能になると考えるからである。このようなことから、競技役員に対しては、自分が行う業務内容を把握するだけでなく、競技全体がどのように動いているか、また、競技規則はどのようになっているかを中心に研修を進めその成果が発揮されたと感じている。それぞれの役員が自分の役割を確実にこなし、様々なアクシデントがあったにもかかわらず、大成功を収めたと言える。

そのような中、課題点も多少発生し、その概要は以下の通りである。

- ・ 監督の所在確認の周知を事前にする必要があった。
(アイソに入室しない監督が、開始通告に出席しない事例があった)
- ・ 監督と選手の行動パターンが異なる場合、持ち込み禁止物品の管理を分割。
- ・ アイソのウォームアップウォールのホールドが回るなどの対応(6角レンチの準備)
- ・ 選手監督を長時間隔離するため、他競技等の情報提供
- ・ 停電の際の対応として、ビデオは、コンセントと別に電池の確保。
- ・ ビデオ撮影の際、太陽の位置を考慮に入れ逆光などの対策。
- ・ 競技役員の飲み物が不足した。十分な水分補給できる体制を考慮。
- ・ 雨対策

オブザ時のカサの使用(危険であると判断したため許可しなかったが)

スタート付近の床が濡れない工夫

ジャッジペーパー及びルート図が濡れない工夫

アイソからコールまでの移動に対する「水たまり」対策

終了選手監督の待機場所の確保

観客への配慮不足

計測、掲示機器、機材の防水対応

- ・ ルートセット時の観客等への移動の指示に対する周知とその理由の明確化

以上、大きな問題はなかったが、やはり雨対策は、クライミング競技にとって大きな課題といえる。今後リード競技を進める上で、会場の計画時に十分な検討が必要であり、スムーズな運営とさらなる競技の省力化、簡素化が行えるか否かは、その会場自体の選定にあると感じた。

ボルダリング競技

主任審判員 山本 和幸

全体講評から

ボルダリングは本年から導入の競技と言うことで、競技運営側としても不慣れな部分があったものと思う。ともあれ多くの方々のご協力で大過なく競技を終えることができたことに御礼申し上げる。すでに20年以上の歴史のあるリード競技に比べ、ボルダリングは国内での競技の歴史が浅く、さら

に国内独自ルールではない IFSC ルールに準拠した競技会が本格的に開催されるようになって 5 年にも満たない。さらに国体は、IFSC ルールにアレンジを加えた部分が多く、細かな部分はまだこれから実際の大会での運用を経て固まっていくものと思う。成年は男女とも参加選手もワールドカップなどの国際大会、そしてジャパンカップなどの国内の大きな大会で上位に入賞を重ねている選手の方々に数多く参加していただいた。そのため課題のレベルも高く、初めて見る観客の方は、人間が登れるとはとても思えないところをアクロパティックに登る選手の姿に、リード競技以上に驚かれたのでは無いかと思う。

他県の選手にとっても、有力選手の登りを直に見ることの出来る、また有力選手と同じ課題を登ることのできる貴重な機会となったのではないだろうか。

少年男子は参加選手の顔ぶれを見ると、国内外のコース大会だけでなく、一般の大きな大会で活躍する選手も多く成年に負けないレベルの高い大会になった。

少年女子は、選手育成という意味では、各都道府県とも最も苦慮しておられる種別ではないか。それでも各ブロック予選を突破して今大会に出場された選手の皆さんのレベルは高く、今後の成長を大いに期待させられるものがあった。

ともあれ今大会で活躍した少年の選手達が次代のクライミング競技の主力となっていくことは間違いない。選手の皆さんの、今後の活躍を期待している。

競技は何と言っても参加選手が主役であり、今後も多くの有力選手に参加していただけることを願うとともに、そうした選手が参加したいと心から思うような大会作りを目指していきたいと考えている。

また選手育成の面からも、競技、そして大会そのものに魅力がなければ、始まらない。国体山岳競技は本年新たな出発をしたわけだが、これを選手にとって魅力のある大会として育てて行くことが、最も重要だろうと考えている。

ルールについて

特に重要な問題はなかったと考えている。ルールについては、ボーナスを二つ設ける、また両者の成績の合算方法など事前に繰り返し検討を重ねたわけだが、その甲斐があったと言うべきだろう。順位はきれいに別れ、申し分の無い結果と言える。

ルール上、気づいた点は、ボーナスポイントのナンバリングである。少年男子でボーナス 1 と 2 の関係を理解しておらず、下のボーナスポイント（ボーナス 2）を最初のアテンプトで保持したのにカウントされていないと抗議した選手がいた。

上位の価値があるものを「1」とすると言う発想でこのように定めたが、先に保持するべき方を「1」とした方が、選手にはわかりやすいようだ。来年度に間に合えば変更を考えるべきかも知れない。

また二人一組で競技するという形式は、別のメリットを生んだように思う。つまり 2 名いる分、そして競技時間が短めである分、選手の登っていない時間が、それだけ少なくなった。つまり予選でも、観客にとっての冗長な時間が、少なくなったのである。一人の競技よりも競技を見慣れない観客にとっては、アトラティブになったのではないだろうか。

終了通告について

進行上のミスは別の問題として、進行については改善すべき点があるだろう。特に国体固有のもので、もはや意味を失ったものがある。その筆頭が予選の終了通告だろう。今回の場合は特に会場が狭く終了選手待機所が体育館外であったため、終了通告まで選手は他の選手の競技を観戦したくてもできない状態になってしまった。特に各班の最初のチームは30分以上も待つことになり気の毒である。決勝の最初のラウンド後はアイソレートする必要があるので隔離するが、それ以外は隔離する意味が

ない。

他の、特に有力選手の登りを見ることは、選手にとって刺激になるだろう。競技終了の時点で選手は解放すべきだ。会場内に他の選手の競技を見られるような形で最終待機所を設けられるとしても、その分、観客の居場所が少なくなってしまうもったいない。

成績の確認についても、処理に時間がかかるため今回は終了通告後になっている。その点でも終了通告まで選手を拘束する意味はなかった。

仮成績の発表の仕方

今回事前に決めてはいなかったのだが、決勝の最初のラウンド終了時の仮成績確認は各県に1部ずつ仮成績を印刷出力し配布して確認させた。これにより掲示によるよりも早く確認ができ、後半ラウンドにスムーズに移行できたと思う。これは予選でも可能ではないか。一般向けの掲示とは別に、各県の監督に場内アナウンスで通知し、印刷出力したものを取りに来させるという形である。これはリードでも意味があると思う。

掲示によるよりも成績をきちんと確認できるので、後々のトラブルも避けることができる。また掲示による発表は、各県による確認終了後でもよいだろう。

表彰式

今回表彰式が他の種別の競技進行中におこなわれているが、そのため主任審判が会場内にいられないと言うことが、リード、ボルダアの双方で何回かあった。これは閉会式を短く済ませるためかもしれないが、主任審判不在の時にテクニカルインシデントなどが発生する可能性もある。もし日程上の理由で表彰式を決勝の日にすぐに設定するのであれば、主任審判は出席せず成績発表は審判長なりがおこなう形で行うべきだ。

負傷で競技不能になった場合の扱い

今回、少年女子、成年男子でそれぞれボルダアの競技中に負傷し、決勝、あるいはリードの決勝に出場に問題の発生した選手が出た。こうしたケースは今後も出てくるだろう。こうした場合の扱いについて、IFSCルールに類似のケースを求めれば、ユース選手権のように1選手が2ルートを登りその総合で成績を決めるタイプの予選で、2ルートの内1ルートでの競技ができなかった場合が挙げられる。こうした場合IFSCでは、競技できなかったルートでのその選手の順位を、競技した選手の最下位の順位の下として最終成績を決定するとしている。これは2選手の成績を総合する国体でも、応用可能だろう。無理に会場に入らせる必要はなく、最下位+1=実参加者数+1で扱えばよい。同じ事は、監督会議後に急病なり事故なりで選手の1名が競技不能になった場合でも適用して良いのではないだろうか。そうすれば棄権扱いにすることなく、順位がつく。無論、両名とも競技不能の場合は棄権とせざるをえないだろうが。

ボルダリング競技

副主任審判員 瀧石裕一

長い間続いてきた歴史ある縦走競技に変わって、今回からボルダリング競技という新しい種目の競技となった。大分国体から正式にボルダリング競技が導入されることが決定した当時は、果たしてうまく順位がバラけるのだろうか？、競技時間は妥当であろうか？、実際に2名で競技できるのだろうか・・・など、いろんな不安を抱えてのスタートであった。

大会1年前には会場地である竹田高校に素晴らしい競技ウォールが設置され各県の選手にとっても最高の環境のもと、最高の盛り上がりで大会を終了することができた。特に成年男子の決勝では、まさに選手と観客がひとつになり、過去の大会では経験したことのない盛り上がりは体が震えるくらいの感動をおぼえた。

運営面においても大きな失敗もなく大変すばらしい大会だったと感じている次第である。

しかし、リハーサル大会同様、本大会においても競技中に停電となり競技運営に支障をきたす事態が発生した。大会においては、いかなる場合であっても競技者にとって有利、不利が生じる事は決して許されるものではない。今後ボルダリング競技を継続していく中で、いかなる事態にも対応できるマニュアルが必要であると感じた。

また、今回成年男子の予選は5分間で行ったが、選手はただ時間に追われて本来の力を出せないまま終わった競技者が多々いたように感じた。成年男子予選の競技時間についても今後検討を要する事項であると思われた。

最後になりましたが「チャレンジ！おおいた国体」ボルダリング競技は大成功のうちに終了することができました。長い間この大会を支えてくださいました竹田市実行委員会をはじめ競技役員及び競技会係員、ボランティアの皆様、競技補助として頑張っていたいただいた竹田高校の皆様には厚く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

3 競 技 会 記 録

第63回国民体育大会 山岳競技会
天皇杯順位

総合成績計算委員	審判長	競技部長	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名
1	4	宮 城
2	12	千 葉
3	1	北海道
3	35	山 口
5	14	神奈川
5	41	佐 賀
7	8	茨 城
8	22	愛 知

第63回国民体育大会 山岳競技会
皇后杯順位

総合成績計算委員	審判長	競技部長	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名
1	8	茨城
2	35	山口
3	18	富山
4	1	北海道
5	4	宮城
5	22	愛知
7	11	埼玉
8	44	大分

第63回国民体育大会 山岳競技会
成年男子 リード競技 表彰者一覧

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名	監督	選手 L	選手
1	4	宮城	竹 内 肇	松 島 暁 人	堀 創
2	12	千葉	飯 田 ゆ か	伊 東 秀 和	渡 辺 数 馬
3	9	栃木	藤 沼 秀 行	安 間 佐 千	家 泉 知 幸
4	42	長崎	牛 澤 敬 一	尾 形 和 俊	江 口 健 太
5	33	岡山	石 原 謙	小 西 大 介	中 原 栄
6	22	愛知	佐 原 晴 人	田 中 周 兵	大 山 史 洋
7	41	佐賀	平 川 直 徳	祝 茂 男	尾 崎 晃 一
8	1	北海道	石 井 昭 彦	一 安 敏 文	國 谷 斗 馬

第63回国民体育大会 山岳競技会
 成年男子 ボルダリング競技 表彰者一覧

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名	監督	選手 L	選手
1	4	宮城	竹 内 肇	松 島 暁 人	堀 創
2	25	滋賀	武 知 亮	村 岡 達 哉	濱 田 健 介
3	35	山口	原 文 男	茂 垣 敬 太	國 弘 一 步
4	41	佐賀	平 川 直 徳	祝 茂 男	尾 崎 晃 一
5	9	栃木	藤 沼 秀 行	安 間 佐 千	家 泉 知 幸
6	16	新潟	後 藤 里 香	平 嶋 元	岩 橋 由 洋
7	12	千葉	飯 田 ゆ か	伊 東 秀 和	渡 辺 数 馬
8	10	群馬	赤 松 久 宇	平 野 正 行	富 澤 太 郎

第63回国民体育大会 山岳競技会
成年女子 リード競技 表彰者一覧

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名	監督	選手 L	選手
1	8	茨城	堀之内 幸子	野口 啓代	池田 結花
2	22	愛知	森本 学	田中 亜貴	戸根木 麻衣
3	4	宮城	舘内 潤	尾川 智子	鳴海 恵里子
4	1	北海道	長井 洋子	高橋 恵	萩原 亜咲
5	11	埼玉	松井 恒和	川端 彰子	門間 希美
6	14	神奈川	高橋 守	福山 京子	遠藤 由加
7	16	新潟	春日 俊信	片桐 麻由子	瀧澤 愉未
8	42	長崎	松崎 文彦	津田 まどか	松尾 智子

第63回国民体育大会 山岳競技会
成年女子 ボルダリング競技 表彰者一覧

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名	監督	選手L	選手
1	8	茨城	堀之内 幸子	野口 啓代	池田 結花
2	1	北海道	長井 洋子	高橋 恵	萩原 亜咲
3	11	埼玉	松井 恒和	川端 彰子	門間 希美
4	4	宮城	舘内 潤	尾川 智子	鳴海 恵里子
5	22	愛知	森本 学	田中 亜貴	戸根木 麻衣
6	14	神奈川	高橋 守	福山 京子	遠藤 由加
7	42	長崎	松崎 文彦	津田 まどか	松尾 智子
8	44	大分	河野 健治	山本 樹理	川尻 三華

第63回国民体育大会 山岳競技会
少年男子 リード競技 表彰者一覧

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名	監督	選手 L	選手
1	41	佐賀	樋口 義朗	尾崎 真人	樋口 純裕
2	12	千葉	植木 喜重	羽鎌田 直人	藤原 健汰
3	17	長野	小沼 拓也	尾形 昌弥	中嶋 涉
4	3	岩手	千葉 真英	長谷川 慎平	藤原 佑樹
5	14	神奈川	高 梨 護	新田 龍海	山内 祐樹
6	1	北海道	橋村 昭男	杉本 怜	岡部 一成
7	35	山口	片岡 泰彦	神鳥 悠輝	貞広 亮太
8	21	静岡	米山 秀也	大橋 征弘	藤井 快

第63回国民体育大会 山岳競技会
少年男子 ボルダリング競技 表彰者一覧

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名	監督	選手 L	選手
1	14	神奈川県	高梨 護	新田 龍海	山内 祐樹
2	1	北海道	橋村 昭男	杉本 怜	岡部 一成
3	3	岩手	千葉 真英	長谷川 慎平	藤原 佑樹
4	17	長野	小沼 拓也	尾形 昌弥	中嶋 涉
5	13	東京	西嶋 久貴	石山 晃	時長 武史
6	41	佐賀	樋口 義朗	尾崎 真人	樋口 純裕
7	12	千葉	植木 喜重	羽鎌田 直人	藤原 健汰
8	21	静岡	米山 秀也	大橋 征弘	藤井 快

第63回国民体育大会 山岳競技会
少年女子 リード競技 表彰者一覧

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名	監督	選手 L	選手
1	18	富山	畑 中 涉	嶋 田 真 琴	内 山 葵
2	35	山口	大 田 真 一	重 永 織 江	大 田 理 姿
3	44	大分	田 北 篤 史	五 十 嵐 純	志 賀 愛
4	16	新潟	山 田 真 史	塚 本 菜 々 香	五 十 嵐 妹 子
5	10	群馬	長 谷 川 喜 久 男	長 谷 川 美 玲	大 澤 咲 子
6	31	鳥取	安 井 博 志	小 塩 紗 生	泉 香 奈 子
7	15	山梨	山 下 聡	縄 重 未 来	鈴 木 舞
8	12	千葉	目 次 俊 雄	山 田 明 香	錦 織 春 香

第63回国民体育大会 山岳競技会
少年女子 ボルダリング競技 表彰者一覧

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

順位	県No.	都道府県名	監督	選手 L	選手
1	35	山口	大 田 真 一	重 永 織 江	大 田 理 婆
2	12	千葉	目 次 俊 雄	山 田 明 香	錦 織 春 香
3	15	山梨	山 下 聡	縄 重 未 来	鈴 木 舞
4	18	富山	畑 中 涉	嶋 田 真 琴	内 山 葵
5	10	群馬	長 谷 川 喜 久 男	長 谷 川 美 玲	大 澤 咲 子
6	31	鳥取	安 井 博 志	小 塩 紗 生	泉 香 奈 子
7	44	大分	田 北 篤 史	五 十 嵐 純	志 賀 愛
8	16	新潟	山 田 真 史	塚 本 菜 々 香	五 十 嵐 妹 子

第63回国民体育大会山岳競技会
成年男子リード予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			合澤

完登 43

スタート順	県 No	都道府県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド	個人順位	平均順位	順位合計	チーム順位
					高度	付記				
24	4	宮城	4 - 1	松島 暁人	Top		1	5.0	10.0	1
24	4	宮城	4 - 2	堀 創	Top		1	5.0		
19	12	千葉	12 - 1	伊東 秀和	43	-	10	11.5	16.5	2
19	12	千葉	12 - 2	渡辺 数馬	Top		1	5.0		
17	22	愛知	22 - 1	田中 周兵	42		14	14.0	19.0	3
17	22	愛知	22 - 2	大山 史洋	Top		1	5.0		
2	42	長崎	42 - 1	尾形 和俊	43	-	10	11.5	23.0	4
2	42	長崎	42 - 2	江口 健太	43	-	10	11.5		
33	33	岡山	33 - 1	小西 大介	39	+	21	22.0	27.0	5
33	33	岡山	33 - 2	中原 栄	Top		1	5.0		
46	9	栃木	9 - 1	安間 佐千	Top		1	5.0	30.5	6
46	9	栃木	9 - 2	家泉 知幸	39		24	25.5		
13	41	佐賀	41 - 1	祝 茂男	40		15	16.0	32.0	7
13	41	佐賀	41 - 2	尾崎 晃一	40		15	16.0		
34	1	北海道	1 - 1	一安 敏文	40		15	16.0	35.0	8
34	1	北海道	1 - 2	國谷 斗馬	40	-	18	19.0		
4	35	山口	35 - 1	茂垣 敬太	Top		1	5.0	38.0	9
4	35	山口	35 - 2	國弘 一步	38		32	33.0		
29	13	東京	13 - 1	杉田 雅俊	40	-	18	19.0	41.0	10
29	13	東京	13 - 2	鈴木 友希	39	+	21	22.0		
28	27	大阪	27 - 1	伊藤 剛史	Top		1	5.0	41.5	11
28	27	大阪	27 - 2	山口 裕稔	35	+	36	36.5		
38	25	滋賀	25 - 1	村岡 達哉	39	-	28	29.5	48.5	12
38	25	滋賀	25 - 2	濱田 健介	40	-	18	19.0		
7	11	埼玉	11 - 1	伊藤 達也	35		38	38.0	49.5	13
7	11	埼玉	11 - 2	角田 大樹	43	-	10	11.5		
6	31	鳥取	31 - 1	瀬戸 啓太	39		24	25.5	55.0	14
6	31	鳥取	31 - 2	本多 隆志	39	-	28	29.5		
35	44	大分	44 - 1	田嶋 一平	39	-	28	29.5	62.5	15
35	44	大分	44 - 2	村岡 賢治	38		32	33.0		
18	21	静岡	21 - 1	藤城 大知	34		39	39.0	72.0	16
18	21	静岡	21 - 2	倉島 将吾	38		32	33.0		
8	16	新潟	16 - 1	平嶋 元	33	-	47	47.5	77.0	17
8	16	新潟	16 - 2	岩橋 由洋	39	-	28	29.5		
5	46	鹿児島	46 - 1	大田 洋典	32		49	52.0	77.5	18
5	46	鹿児島	46 - 2	福岡 彰	39		24	25.5		
16	43	熊本	43 - 1	加藤 晃一	39		24	25.5	84.5	19
16	43	熊本	43 - 2	古川 二郎	32	-	56	59.0		
32	34	広島	34 - 1	中村 将也	32		49	52.0	88.5	20
32	34	広島	34 - 2	中野 稔	35	+	36	36.5		
9	14	神奈川	14 - 1	高橋 繁樹	29		68	68.0	90.0	21
9	14	神奈川	14 - 2	柴田 晃一	39	+	21	22.0		
36	15	山梨	15 - 1	根路銘 幸昌	33	-	47	47.5	90.5	22
36	15	山梨	15 - 2	遠藤 拓真	33	+	42	43.0		
26	32	島根	32 - 1	水野 秀晴	34	-	40	40.5	92.5	23
26	32	島根	32 - 2	伊藤 寛敏	32		49	52.0		
43	28	兵庫	28 - 1	中井 飛鳥	32		49	52.0	95.0	24
43	28	兵庫	28 - 2	松井 和也	33	+	42	43.0		

スタート順	県 No	都道府県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド	個人順位	平均順位	順位合計	チーム順位
					高度	付記				
45	47	沖縄	47 - 1	永田 乃由季	Top		1	5.0	97.5	25
45	47	沖縄	47 - 2	崎原 成祐	15		92	92.5		
10	10	群馬	10 - 1	平野 正行	33		45	45.5	97.5	26
10	10	群馬	10 - 2	富澤 太郎	32		49	52.0		
30	19	石川	19 - 1	宮保 雄一	36	-	35	35.0	100.0	27
30	19	石川	19 - 2	加藤 大治朗	31	-	65	65.0		
21	17	長野	17 - 1	笠原 大輔	32	-	56	59.0	104.5	28
21	17	長野	17 - 2	喜多 篤志	33		45	45.5		
39	8	茨城	8 - 1	國井 敬一	34	-	40	40.5	112.0	29
39	8	茨城	8 - 2	森 清隆	27	+	71	71.5		
47	18	富山	18 - 1	藤岡 博和	30		66	66.5	118.5	30
47	18	富山	18 - 2	高田 大輔	32		49	52.0		
15	3	岩手	3 - 1	長谷川 健太	33	+	42	43.0	119.5	31
15	3	岩手	3 - 2	坂本 大輔	26	-	76	76.5		
42	38	愛媛	38 - 1	岸本 光樹	27	+	71	71.5	130.5	32
42	38	愛媛	38 - 2	竹本 祐	32	-	56	59.0		
25	26	京都	26 - 1	吉岡 千陽	27		73	73.0	132.0	33
25	26	京都	26 - 2	常塚 博司	32	-	56	59.0		
20	40	福岡	40 - 1	百田 浩昌	25.5		78	78.0	137.0	34
20	40	福岡	40 - 2	西川 角人	32	-	56	59.0		
22	7	福島	7 - 1	佐々木 亮介	26		74	74.5	138.0	35
22	7	福島	7 - 2	高橋 史昇	31	+	63	63.5		
12	24	岐阜	24 - 1	久保 祐二	32		49	52.0	139.0	36
12	24	岐阜	24 - 2	下田 将徳	18	+	87	87.0		
11	20	福井	20 - 1	山本 智博	26	-	76	76.5	143.0	37
11	20	福井	20 - 2	牧田 康弘	30		66	66.5		
41	45	宮崎	45 - 1	野村 和喜	32	-	56	59.0	144.5	38
41	45	宮崎	45 - 2	山崎 健誠	22		85	85.5		
31	30	和歌山	30 - 1	山本 祐輔	32	-	56	59.0	147.5	39
31	30	和歌山	30 - 2	田島 康宏	18		88	88.5		
44	6	山形	6 - 1	手塚 慎弥	28	-	69	69.5	153.0	40
44	6	山形	6 - 2	善養寺 顕彦	22	+	83	83.5		
3	23	三重	23 - 1	児玉 致	18	-	90	90.5	154.0	41
3	23	三重	23 - 2	塩田 智久	31	+	63	63.5		
1	37	徳島	37 - 1	阿部 六輔	28	-	69	69.5	162.0	42
1	37	徳島	37 - 2	三木 康浩	15		92	92.5		
40	29	奈良	29 - 1	宮田 尚文	25		80	80.0	162.0	43
40	29	奈良	29 - 2	上高垣内 敬史	23	+	82	82.0		
27	5	秋田	5 - 1	阿部 茂雄	18		88	88.5	163.0	44
27	5	秋田	5 - 2	五十嵐 圭	26		74	74.5		
23	2	青森	2 - 1	菅原 智	24		81	81.0	166.5	45
23	2	青森	2 - 2	成田 純也	22		85	85.5		
14	39	高知	39 - 1	戸田 祐敬	25.5	-	79	79.0	173.0	46
14	39	高知	39 - 2	渡辺 佐彦	14		94	94.0		
37	36	香川	36 - 1	藤本 慎治	22	+	83	83.5	174.0	47
37	36	香川	36 - 2	秋山 真一	18	-	90	90.5		

第63回国民体育大会山岳競技会
成年男子リード決勝

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			合澤

完登 40

スタート 順位	県 No	都道府 県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド	個人 順位	平均 順位	順位 合計	決勝 順位	予選 順位
					高度	付記					
8	4	宮城	4 - 1	松島 暁人	39	-	4	4.0	6.5	1	1
8	4	宮城	4 - 2	堀 創	40	-	2	2.5			
7	12	千葉	12 - 1	伊東 秀和	34	-	7	7.5	10.0	2	2
7	12	千葉	12 - 2	渡辺 数馬	40	-	2	2.5			
3	9	栃木	9 - 1	安間 佐千	Top		1	1.0	14.5	3	6
3	9	栃木	9 - 2	家泉 知幸	24	-	12	13.5			
5	42	長崎	42 - 1	尾形 和俊	36	-	6	6.0	15.0	4	4
5	42	長崎	42 - 2	江口 健太	30	+	9	9.0			
4	33	岡山	33 - 1	小西 大介	24	-	12	13.5	18.5	5	5
4	33	岡山	33 - 2	中原 栄	38	-	5	5.0			
6	22	愛知	22 - 1	田中 周兵	34	-	7	7.5	18.5	6	3
6	22	愛知	22 - 2	大山 史洋	29	-	11	11.0			
2	41	佐賀	41 - 1	祝 茂男	24	-	12	13.5	23.5	7	7
2	41	佐賀	41 - 2	尾崎 晃一	29		10	10.0			
1	1	北海道	1 - 1	一安 敏文	24	-	12	13.5	29.5	8	8
1	1	北海道	1 - 2	國谷 斗馬	22		16	16.0			

第63回国民体育大会山岳競技会
成年男子ボルダリング予選

審判長		競技部長		主任審判員		得点集計係	
-----	--	------	--	-------	--	-------	--

スタート順	県 No	都道府県名	ゼッケン No	氏名	P1		P2		P3		P4		TOP at	T at	B1 at	B2 at	B2 at	個人順位	平均順位	順位合計	チーム順位	
					TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1										B2
43	4	宮城	4-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	4	4	3	3.5	5.5	1	
43	4	宮城	4-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	6	4	2	2.0			
29	25	滋賀	25-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	17	17.0	22.5	2	
29	25	滋賀	25-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	5	4	5	5.5			
46	10	群馬	10-	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	4	2	3	4	15	15.0	22.5	3	
46	10	群馬	10-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	4	7	7.5			
45	41	佐賀	41-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4	2	3	4	16	16.0	27.0	4	
45	41	佐賀	41-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	5	4	11	11.0			
16	35	山口	35-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	4	10	10.0	31.5	5		
16	35	山口	35-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	18	21.5			
22	9	栃木	9-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	4	5	4	1	1.0	34.0	6	
22	9	栃木	9-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	33	33.0			
24	16	新潟	16-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4	2	2	4	14	14.0	35.5	7	
24	16	新潟	16-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	18	21.5			
15	12	千葉	12-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	34	34.0	39.5	8	
15	12	千葉	12-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	5	4	5	5.5			
21	44	大分	44-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	2	3	4	12	12.5	41.0	9	
21	44	大分	44-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	26	28.5			
34	31	鳥取	31-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	18	21.5	43.0	10	
34	31	鳥取	31-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	18	21.5			
11	33	岡山	33-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4	3	38	38.0	50.5	11	
11	33	岡山	33-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	2	3	4	12	12.5			
27	22	愛知	22-	X	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	2	2	4	51	51.0	54.5	12	
27	22	愛知	22-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	4	4	3	3.5			
12	13	東京	13-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	36	36.0	57.5	13	
12	13	東京	13-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	18	21.5			
2	21	静岡	21-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	4	9	9.0	61.5	14	
2	21	静岡	21-	X	1	1	1	1	1	1	1	1	2	0	2	2	4	52	52.5			
7	1	北海道	1-	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	2	2	4	50	50.0	71.5	15	
7	1	北海道	1-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	18	21.5			
31	19	石川	19-	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3	44	44.0	72.5	16	
31	19	石川	19-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	26	28.5			

本部確認用

第63回国民体育大会山岳競技会
成年男子ボルダリング予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			合澤

順位	都道府県	ゼッケン No	氏名	P1		P2		P3		P4		TOP	T at	B1 at	B2 at	個人順位	平均順位	順位合計	予一ム順位		
				TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1									B2	TOP
37	46	鹿見島	大田 洋典	X	1	1	X	X	1	X	2	1	X	X	X	3	3	61	61.0	82.5	17
37	46	鹿見島	福岡 彰	1	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	1	1	18	21.5		
36	17	長野	笠原 大輔	1	1	1	X	X	2	X	X	X	1	X	X	3	4	40	40.0	85.0	18
36	17	長野	喜多 篤志	2	1	1	X	X	1	X	X	4	1	X	X	3	45	45.0			
40	3	岩手	長谷川 健太	2	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	3	42	42.5	85.0	19	
44	2	青森	坂本 大輔	2	1	1	X	X	X	X	1	1	1	X	X	3	42	42.5			
44	2	青森	菅原 智	1	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	3	32	32.0	87.0	20	
4	42	長崎	成田 純也	X	3	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	3	54	55.0			
4	42	長崎	尾形 和俊	2	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	2	48	48.0	89.0	21	
47	24	岐阜	江口 健太	1	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	4	41	41.0			
47	24	岐阜	久保 祐二	X	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	4	18	21.5	95.5	22	
32	47	沖繩	下田 将徳	1	1	1	X	X	X	X	X	X	0	X	X	1	72	74.0			
32	47	沖繩	永田 乃由季	1	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	4	7	7.5	98.0	23	
35	43	熊本	崎原 成祐	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	X	X	1	87	90.5			
35	43	熊本	加藤 晃一	X	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	3	54	55.0	102.0	24	
38	20	福井	古川 二郎	2	1	1	X	X	X	X	X	X	1	X	X	1	47	47.0			
38	20	福井	山本 智博	X	1	1	X	X	2	X	X	2	2	X	X	8	68	68.0	103.0	25	
18	11	埼玉	牧田 康弘	1	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	3	35	35.0			
18	11	埼玉	伊藤 運也	X	2	2	X	X	1	X	1	1	1	X	X	1	58	58.0	104.0	26	
30	32	島根	角田 大樹	2	1	1	X	X	2	X	X	3	1	X	X	6	46	46.0			
30	32	島根	水野 秀晴	X	X	1	X	X	X	3	3	3	1	X	X	7	49	49.0	104.0	27	
26	15	山梨	伊藤 寛敏	X	1	1	X	X	1	X	1	1	0	X	X	3	54	55.0			
26	15	山梨	根路 銘幸昌	X	2	1	X	X	1	X	X	2	1	X	X	5	77	77.0	105.5	28	
13	34	広島	遠藤 拓真	1	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	2	26	28.5			
13	34	広島	中村 将也	X	3	1	X	X	1	X	X	2	0	X	X	4	79	79.0	107.5	29	
9	30	和歌山	中野 稔	1	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	5	26	28.5			
9	30	和歌山	山本 祐輔	1	1	1	X	X	2	X	1	1	1	X	X	5	26	28.5	113.5	30	
5	27	大阪	田島 康宏	X	X	1	X	X	1	X	X	X	0	X	X	2	85	85.0			
5	27	大阪	伊藤 剛史	X	1	1	X	X	1	X	2	2	0	X	X	6	59	59.0	116.0	31	
14	14	神奈川	山口 裕稔	X	X	1	X	X	4	X	1	1	0	X	X	6	57	57.0			
14	14	神奈川	高橋 繁樹	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	X	X	1	87	90.5	119.0	32	
14	14	神奈川	柴田 晃一	1	1	1	X	X	1	X	1	1	1	X	X	5	26	28.5			

本部確認用

第63回国民体育大会山岳競技会
成年男子ボルダリング予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係

ｽﾀｰﾄ順	県	都道府県名	ゼッケン No	氏名	P1		P2		P3		P4		TOP	T at	B1 at	B1 at	B2 at	B2 at	個人順位	平均順位	順位合計	チーム順位
					TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1										
23	7	福島	7-1	佐々木 亮介	X	X	2	X	X	X	2	X	X	0	0	0	0	2	4	86.0	123.0	33
23	7	福島	7-2	高橋 史界	1	1	1	X	X	3	3	X	X	1	1	2	4	4	7	37.0		
39	8	茨城	8-1	國井 敬一	X	1	1	X	X	1	1	X	X	0	0	2	2	4	5	52	123.0	34
39	8	茨城	8-2	森 清隆	X	1	1	X	X	3	3	X	X	0	0	1	1	3	6	70.5		
3	28	兵庫	28-1	中井 飛鳥	X	3	1	X	X	1	1	X	X	0	0	2	4	2	2	64	124.0	35
3	28	兵庫	28-2	松井 和也	X	2	2	X	X	1	1	X	X	0	0	2	3	4	8	60.0		
41	26	京都	26-1	吉岡 千陽	X	4	2	X	X	1	1	X	X	0	0	2	5	4	8	66	128.5	36
41	26	京都	26-2	常塚 博司	X	2	1	X	X	1	1	X	X	0	0	2	3	2	2	62	62.5	
33	40	福岡	40-1	百田 浩昌	1	1	1	X	X	2	2	X	X	1	1	1	4	5	39	39.0	129.5	37
33	40	福岡	40-2	西川 角人	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	1	1	87	90.5	
19	29	奈良	29-1	宮田 尚文	X	2	2	X	X	2	2	X	X	0	0	2	4	2	4	65	139.0	38
19	29	奈良	29-2	上高垣内 敬史	X	1	1	X	X	X	X	X	X	0	0	1	1	1	1	72	74.0	
17	39	高知	39-1	戸田 祐敬	X	1	1	X	X	X	X	X	X	0	0	1	1	1	1	72	74.0	
17	39	高知	39-2	渡辺 佐彦	X	1	1	X	X	X	X	X	X	0	0	1	1	1	1	72	74.0	
25	36	香川	36-1	藤本 慎治	X	X	1	X	X	1	1	X	X	0	0	0	0	3	4	82	150.0	40
25	36	香川	36-2	秋山 真一	X	2	1	X	X	3	3	X	X	0	0	2	5	2	4	67	67.0	
6	6	山形	6-1	手塚 慎弥	X	1	1	X	X	2	2	X	X	0	0	2	3	2	2	62	62.5	41
6	6	山形	6-2	善養寺 顕彦	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	1	1	87	90.5	
20	38	愛媛	38-1	岸本 光樹	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	1	1	87	90.5	
20	38	愛媛	38-2	竹本 祐	X	1	1	X	X	X	X	X	X	0	0	1	1	3	4	69	69.0	42
28	37	徳島	37-1	阿部 六輔	X	1	1	X	X	4	4	X	X	0	0	1	1	3	6	70	161.0	43
28	37	徳島	37-2	三木 廣浩	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	1	1	87	90.5	
1	45	宮崎	45-1	野村 和喜	X	2	2	X	X	1	1	X	X	0	0	1	2	3	6	78	78.0	44
1	45	宮崎	45-2	山崎 健誠	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	3	4	82	83.0	
10	18	富山	18-1	藤岡 博和	X	X	1	X	X	3	2	X	X	0	0	1	3	2	3	80	163.0	45
10	18	富山	18-2	高田 大輔	X	X	1	X	X	X	1	X	X	0	0	0	0	3	4	82	83.0	
8	23	三重	23-1	児玉 致	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	1	1	87	90.5	46
8	23	三重	23-2	塩田 智久	X	1	1	X	X	X	X	X	X	0	0	1	1	1	1	72	74.0	
42	5	秋田	5-1	阿部 茂雄	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	1	1	87	90.5	
42	5	秋田	5-2	五十嵐 圭	X	3	1	X	X	X	X	X	X	0	0	1	3	1	1	81	81.0	47

第63回国民体育大会山岳競技会
成年男子ボルダリング決勝

審判長		競技部長		主任審判員		得点集計係	
-----	--	------	--	-------	--	-------	--

No	都道府 No	ゼッケン No	氏名	決勝Round												予選 順位										
				P1		P2		P3		P4		TOP at	T at	B1 at	B1 at		B2 at	B2 at	個人 順位	平均 順位	順位 合計	チーム 順位				
				TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1												B2	TOP	B1	B2
4	宮城	4-1	松島 暁人	1	1	1	X	X	X	1	1	1	X	X	X	2	2	2	2	2	2	2	4	4.0	5.0	1
4	宮城	4-2	堀 創	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	4	1	1.0		
25	滋賀	25-1	村岡 達哉	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	4	5	4	5	4	4	4	2	2.0	9.0	2
25	滋賀	25-2	濱田 健介	X	2	1	X	X	1	X	X	X	X	X	3	0	0	2	5	3	3	3	7	7.0		
35	山口	35-1	茂垣 敬太	1	1	1	2	2	2	X	X	1	1	1	1	3	4	3	4	4	5	3	3	3.0	11.0	3
35	山口	35-2	國弘 一步	X	X	1	X	X	1	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	3	7	8	8	8.0		
41	佐賀	41-1	祝 茂男	1	1	1	X	X	1	6	6	6	X	X	X	2	7	2	7	3	8	5	5.0	11.0	4	
41	佐賀	41-2	尾崎 晃一	X	1	1	1	1	1	X	X	X	X	2	2	1	3	4	3	4	3	6	6.0			
9	栃木	9-1	安間 佐千	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	2.0	18.0	5	
9	栃木	9-2	家泉 知幸	X	X	X	X	X	1							0	0	0	0	1	1	16	16.0			
16	新潟	16-1	平嶋 元	X	X	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	7	7.5	19.0	6	
16	新潟	16-2	岩橋 由洋	X	2	1	X	X	1							0	0	1	2	2	2	11	11.5			
12	千葉	12-1	伊東 秀和	X	X	3	X	X	2							0	0	0	0	2	5	15	15.0			
12	千葉	12-2	渡辺 教馬	X	1	1	1	1	1							1	1	2	2	2	2	5	5.5			
10	群馬	10-1	平野 正行	X	X	3	1	1	1							1	1	1	1	2	4	9	9.0	23.0	8	
10	群馬	10-2	富澤 太郎	X	X	2	X	X	1							0	0	0	0	2	3	14	14.0			

※5位以下は、決勝R①の平均順位

第63回国民体育大会山岳競技会
成年女子リード予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

完登 46

スタート順	県 No	都道府県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド付記	個人順位	平均順位	順位合計	チーム順位
					高度					
3	8	茨城	8 - 1	野口 啓代	Top		1	1.5	7.5	1
3	8	茨城	8 - 2	池田 結花	44		6	6.0		
5	22	愛知	22 - 1	田中 亜貴	46	-	3	3.5	11.0	2
5	22	愛知	22 - 2	戸根木 麻衣	40	-	7	7.5		
6	14	神奈川	14 - 1	福山 京子	31	-	12	15.0	20.0	3
6	14	神奈川	14 - 2	遠藤 由加	44	+	5	5.0		
1	4	宮城	4 - 1	尾川 智子	Top		1	1.5	22.0	4
1	4	宮城	4 - 2	鳴海 恵里子	29	+	20	20.5		
7	1	北海道	1 - 1	高橋 恵	31	-	12	15.0	22.5	5
7	1	北海道	1 - 2	萩原 亜咲	40	-	7	7.5		
17	16	新潟	16 - 1	片桐 麻由子	34		11	11.0	26.0	6
17	16	新潟	16 - 2	瀧澤 愉未	31	-	12	15.0		
2	42	長崎	42 - 1	津田 まどか	34	+	10	10.0	29.0	7
2	42	長崎	42 - 2	松尾 智子	30	-	19	19.0		
14	11	埼玉	11 - 1	川端 彰子	28		27	27.5	31.0	8
14	11	埼玉	11 - 2	門間 希美	46	-	3	3.5		
9	27	大阪	27 - 1	中貝 星子	38	-	9	9.0	36.5	9
9	27	大阪	27 - 2	福地 志麻	28		27	27.5		
4	44	大分	44 - 1	山本 樹理	31	-	12	15.0	38.5	10
4	44	大分	44 - 2	川尻 三華	29	-	23	23.5		
10	43	熊本	43 - 1	月岡 美子	29	+	20	20.5	44.0	11
10	43	熊本	43 - 2	武井 あゆみ	29	-	23	23.5		
8	26	京都	26 - 1	上中 恵子	31	-	12	15.0	47.0	12
8	26	京都	26 - 2	岡田 亜紀	19	-	31	32.0		
13	28	兵庫	28 - 1	中井 知花	31	-	12	15.0	49.5	13
13	28	兵庫	28 - 2	水島 知子	18	+	34	34.5		
11	35	山口	35 - 1	原田 希有子	18	+	34	34.5	49.5	13
11	35	山口	35 - 2	川畑 亜野	31	-	12	15.0		
15	46	鹿児島	46 - 1	沼田 美香	29		22	22.0	51.0	15
15	46	鹿児島	46 - 2	谷口 候子	22	+	29	29.0		
16	3	岩手	3 - 1	高橋 亜也加	22		30	30.0	55.5	16
16	3	岩手	3 - 2	畠山 千怜	28	+	25	25.5		
12	31	鳥取	31 - 1	浜根 佳代	19	-	31	32.0	57.5	17
12	31	鳥取	31 - 2	廣芳 優香里	28	+	25	25.5		
18	39	高知	39 - 1	岡村 恵子	16	+	36	36.0	68.0	18
18	39	高知	39 - 2	野田 由美子	19	-	31	32.0		

本部確認用

第63回国民体育大会山岳競技会
成年女子リード決勝

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

完登 47

県 No	都道府 県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド	個人 順位	平均 順位	順位 合計	決勝 順位	予選 順位
				高度	付記					
8	茨城	8 - 1	野口 啓代	Top		1	1.0	7.0	1	1
8	茨城	8 - 2	池田 結花	41	-	6	6.0			
22	愛知	22 - 1	田中 亜貴	45	-	2	2.5	10.5	2	2
22	愛知	22 - 2	戸根木 麻衣	36		8	8.0			
4	宮城	4 - 1	尾川 智子	45	-	2	2.5	13.5	3	4
4	宮城	4 - 2	鳴海 恵里子	31	+	11	11.0			
1	北海道	1 - 1	高橋 恵	32	-	9	9.5	16.5	4	5
1	北海道	1 - 2	萩原 亜咲	37	-	7	7.0			
11	埼玉	11 - 1	川端 彰子	25		13	13.0	17.0	5	8
11	埼玉	11 - 2	門間 希美	44	+	4	4.0			
14	神奈川	14 - 1	福山 京子	24	+	14	14.0	19.0	6	3
14	神奈川	14 - 2	遠藤 由加	43		5	5.0			
16	新潟	16 - 1	片桐 麻由子	32	-	9	9.5	21.5	7	6
16	新潟	16 - 2	瀧澤 愉未	31	-	12	12.0			
42	長崎	42 - 1	津田 まどか	22	-	15	15.0	31.0	8	7
42	長崎	42 - 2	松尾 智子	17	-	16	16.0			

第63回国民体育大会山岳競技会
成年女子ボルダリング予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係

スタート順	県 No	都道府県名	ゼッケン No	氏名	P1			P2			P3			P4		TOP at	T at	B1 at	B1 at	B2 at	B2 at	個人順位	平均順位	順位合計	予一ム順位
					TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1										
1	8	茨城	8-1	野口 啓代	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	4	1	2.0	4.0	1
1	8	茨城	8-2	池田 結花	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	4	1	2.0		
9	1	北海道	1-1	高橋 恵	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	5	4	4	4	4	4	4	4.0	9.5	2
9	1	北海道	1-2	萩原 亜咲	1	1	1	1	1	1	1	1	X	1	3	3	4	4	4	4	4	5	5.5	13.5	3
14	22	愛知	22-1	田中 亜貴	1	1	1	1	1	1	1	1	X	1	3	3	4	4	4	4	4	5	5.5		
14	22	愛知	22-2	戸根木 麻衣	1	1	1	1	1	1	1	X	2	1	3	3	4	5	4	4	4	7	8.0		
16	4	宮城	4-1	尾川 智子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	4	1	2.0	14.0	4
16	4	宮城	4-2	鳴海 恵里子	2	1	1	1	1	1	1	1	X	1	3	4	3	3	3	4	4	12	12.0		
11	11	埼玉	11-1	川端 彰子	1	1	1	1	1	1	1	1	X	1	3	3	3	3	3	4	10	10.5	18.5	5	
11	11	埼玉	11-2	門間 希美	1	1	1	1	1	1	1	1	X	2	3	3	4	5	4	4	7	8.0			
17	44	大分	44-1	山本 樹理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3	3	4	16	16.5	30.5	6	
17	44	大分	44-2	川尻 三華	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	5	3	3	3	4	14	14.0			
15	14	神奈川	14-1	福山 京子	1	1	1	X	1	1	1	1	X	1	2	3	2	2	4	4	23	23.5	31.5	7	
15	14	神奈川	14-2	遠藤 由加	1	1	1	1	1	1	1	1	X	2	3	3	4	5	4	4	7	8.0			
4	42	長崎	42-1	津田 まどか	1	1	1	1	1	1	1	1	X	1	3	4	3	4	4	5	13	13.0	32.0	8	
4	42	長崎	42-2	松尾 智子	1	1	1	X	1	1	1	1	X	1	2	2	2	2	4	4	18	19.0			
3	27	大阪	27-1	中貝 星子	1	1	1	1	1	1	1	1	X	1	3	3	3	3	4	4	10	10.5	39.5	9	
3	27	大阪	27-2	福地 志麻	1	1	1	X	1	1	X	4	1	X	1	1	2	5	3	3	29	29.0			
10	46	鹿児島	46-1	沼田 美香	1	1	1	3	3	1	2	1	1	X	3	6	3	5	4	4	15	15.0	40.0	10	
10	46	鹿児島	46-2	谷口 候子	1	1	1	X	1	1	2	1	1	X	2	3	2	2	2	4	25	25.0			
12	43	熊本	43-1	月岡 美子	1	1	1	X	1	1	2	1	1	X	1	2	2	2	2	4	23	23.5	42.5	11	
12	43	熊本	43-2	武井 あゆみ	1	1	1	X	1	1	1	1	1	X	1	2	2	2	2	4	18	19.0			
6	35	山口	35-1	原田 希有子	X	1	1	X	1	1	1	1	1	X	1	1	2	2	2	4	26	27.0	43.5	12	
6	35	山口	35-2	川畑 亜野	1	1	1	X	1	1	1	1	1	X	1	2	2	3	3	4	16	16.5			
5	16	新潟	16-1	片桐 麻由子	1	1	1	X	1	1	1	1	1	X	2	2	2	2	2	3	21	21.0	48.0	13	
5	16	新潟	16-2	瀧澤 愉未	1	1	1	X	1	1	X	1	1	X	1	1	2	2	2	4	26	27.0			
8	28	兵庫	28-1	中井 知子	1	1	1	X	1	1	1	1	1	X	1	2	2	2	2	4	18	19.0	51.0	14	
8	28	兵庫	28-2	水島 知子	4	2	1	X	1	1	X	1	1	X	1	4	1	2	3	3	32	32.0			
7	3	岩手	3-1	高橋 亜也加	1	1	1	X	2	1	2	1	1	X	1	2	3	3	4	4	22	22.0	55.0	15	
7	3	岩手	3-2	畠山 千怜	X	1	1	X	1	1	X	2	1	X	2	0	3	4	4	5	33	33.0			
13	31	鳥取	31-1	浜根 佳代	1	1	1	X	1	1	X	1	1	X	1	1	2	2	2	4	26	27.0	62.5	16	
13	31	鳥取	31-2	廣芳 優香里	X	1	1	X	1	1	X	1	1	X	1	0	1	1	1	4	5	35	35.5		
2	39	高知	39-1	岡村 恵子	X	1	1	X	1	1	X	1	1	X	1	0	0	1	1	4	4	34	34.0	65.0	17
2	39	高知	39-2	野田 由美子	2	2	2	X	1	1	X	1	1	X	1	1	2	1	2	4	5	31	31.0		
18	26	京都	26-1	上中 恵子	2	1	1	X	1	1	X	1	1	X	1	1	2	1	1	4	4	30	30.0	65.5	18
18	26	京都	26-2	岡田 亜紀	X	1	1	X	1	2	X	1	1	X	1	0	0	1	1	4	5	35	35.5		

第63回国民体育大会山岳競技会
成年女子ボルダリング決勝

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係

県 No	都道府 県名	ゼッケン No	氏名	決勝Round												予選 順位									
				P1			P2			P3			P4				個人 順位	平均 順位	順位 合計	チーム 順位					
				TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1	B2						T at	B1 at	B1 at	T at	
8	茨城	8-1	野口啓代	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	5	4	5	4	4	4	6.5	1	1
8	茨城	8-2	池田結花	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	4	3	4	4	4	4	6.5	2	2
1	北海道	1-1	高橋 恵	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	9.5	3	5
1	北海道	1-2	萩原 亜咲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	9.5	3	5
11	埼玉	11-1	川端 彰子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	13.5	4	4
11	埼玉	11-2	門間 希美	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	4	3	4	4	4	4	13.5	4	4
4	宮城	4-1	尾川 智子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	16.5	5	3
4	宮城	4-2	鳴海 恵里子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	16.5	5	3
22	愛知	22-1	田中 亜貴	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	18.0	6	7
22	愛知	22-2	戸根木 麻衣	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18.0	6	7
14	神奈川	14-1	福山 京子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23.0	7	8
14	神奈川	14-2	遠藤 由加	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	23.0	7	8
42	長崎	42-1	津田 まどか	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	31.0	8	6
42	長崎	42-2	松尾 智子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	31.0	8	6
44	大分	44-1	山本 樹理	X	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	2	3	2	3	2	31.0	8	6
44	大分	44-2	川尻 三華	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	0	0	1	1	1	1	1	31.0	8	6

※5位以下は、決勝R①の平均順位

第63回国民体育大会山岳競技会
少年男子リード予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

完登 44

スタート順	県 No	都道府県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド	個人順位	平均順位	順位合計	チーム順位
					高度	付記				
16	41	佐賀	41 - 1	尾崎 真人	41		11	11.0	13.0	1
16	41	佐賀	41 - 2	樋口 純裕	Top		1	2.0		
3	35	山口	35 - 1	神鳥 悠輝	42	-	9	9.5	16.0	2
3	35	山口	35 - 2	貞広 亮太	42	+	5	6.5		
10	14	神奈川	14 - 1	新田 龍海	Top		1	2.0	22.0	3
10	14	神奈川	14 - 2	山内 祐樹	34	-	19	20.0		
19	3	岩手	3 - 1	長谷川 慎平	42	+	5	6.5	22.5	4
19	3	岩手	3 - 2	藤原 佑樹	36	-	16	16.0		
20	1	北海道	1 - 1	杉本 怜	43	-	4	4.0	27.0	5
20	1	北海道	1 - 2	岡部 一成	33	-	23	23.0		
14	12	千葉	12 - 1	羽鎌田 直人	Top		1	2.0	32.0	6
14	12	千葉	12 - 2	藤原 健汰	29		29	30.0		
5	21	静岡	21 - 1	大橋 征弘	31		26	26.0	32.5	7
5	21	静岡	21 - 2	藤井 快	42	+	5	6.5		
6	17	長野	17 - 1	尾形 昌弥	34	-	19	20.0	33.0	8
6	17	長野	17 - 2	中嶋 涉	40	+	13	13.0		
11	13	東京	13 - 1	石山 晃	40	-	14	14.0	34.0	9
11	13	東京	13 - 2	時長 武史	34	-	19	20.0		
13	31	鳥取	31 - 1	中村 隆寛	41	-	12	12.0	37.0	10
13	31	鳥取	31 - 2	伊藤 謙	31	+	25	25.0		
12	44	大分	44 - 1	佐藤 貴洋	35	-	17	17.0	39.0	11
12	44	大分	44 - 2	佐藤 秀一	33	+	22	22.0		
18	18	富山	18 - 1	橋場 友祐	42	-	9	9.5	39.5	12
18	18	富山	18 - 2	山本 凌	29		29	30.0		
9	42	長崎	42 - 1	林 富明	42	+	5	6.5	43.5	13
9	42	長崎	42 - 2	松尾 雅彦	19	+	37	37.0		
15	24	岐阜	24 - 1	水口 勝登	36	+	15	15.0	45.0	14
15	24	岐阜	24 - 2	鈴木 隆将	29		29	30.0		
17	27	大阪	27 - 1	八木 冬馬	34		18	18.0	51.0	15
17	27	大阪	27 - 2	久下 陸弥	26		33	33.0		
7	43	熊本	43 - 1	田中 直洋	32		24	24.0	58.0	16
7	43	熊本	43 - 2	石松 将武	21	+	34	34.0		
8	26	京都	26 - 1	澤本 拓八	29	-	32	32.0	59.0	17
8	26	京都	26 - 2	西浦 友基	30	+	27	27.0		
2	4	宮城	4 - 1	村上 洸弥	30	-	28	28.0	63.0	18
2	4	宮城	4 - 2	菊池 駿一	20		35	35.0		
4	39	高知	39 - 1	武正 知久	20	-	36	36.0	74.5	19
4	39	高知	39 - 2	宮崎 智弘	19	-	38	38.5		
1	37	徳島	37 - 1	鎌田 信平	19	-	38	38.5	78.5	20
1	37	徳島	37 - 2	丸尾 直輝	11	+	40	40.0		

第63回国民体育大会山岳競技会
少年男子リード決勝

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

完登 42

県 No	都道府 県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド	個人 順位	平均 順位	順位 合計	決勝 順位	予選 順位
				高度	付記					
41	佐賀	41 - 1	尾崎 真人	33		6	6.0	7.5	1	1
41	佐賀	41 - 2	樋口 純裕	Top		1	1.5			
12	千葉	12 - 1	羽鎌田 直人	38		4	4.0	14.0	2	6
12	千葉	12 - 2	藤原 健汰	32	-	9	10.0			
17	長野	17 - 1	尾形 昌弥	32		7	7.5	15.0	3	8
17	長野	17 - 2	中嶋 涉	32		7	7.5			
3	岩手	3 - 1	長谷川 慎平	39	-	3	3.0	15.5	4	4
3	岩手	3 - 2	藤原 佑樹	31	+	12	12.5			
14	神奈川	14 - 1	新田 龍海	Top		1	1.5	16.5	5	3
14	神奈川	14 - 2	山内 祐樹	28	-	15	15.0			
1	北海道	1 - 1	杉本 怜	38	-	5	5.0	21.0	6	5
1	北海道	1 - 2	岡部 一成	27	+	16	16.0			
35	山口	35 - 1	神鳥 悠輝	32	-	9	10.0	22.5	7	2
35	山口	35 - 2	貞広 亮太	31	+	12	12.5			
21	静岡	21 - 1	大橋 征弘	32	-	9	10.0	24.0	8	7
21	静岡	21 - 2	藤井 快	30		14	14.0			

第63回国民体育大会山岳競技会
少年男子ボルダリング予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係

スク ト順	都道府 県 No	ゼッケン No	氏名	P1		P2		P3		P4		TOP at	T at	B1 at	B2 at	B2 at	個人 順位	平均 順位	順位 合計	チーム 順位	
				TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1										B2
19	14	14-1	新田 龍海	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	1	2.5	7.5	1	
19	14	14-2	山内 祐樹	1	1	1	1	2	1	1	1	4	5	4	4	4	5	5.0			
11	41	41-1	尾崎 真人	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	1	2.5	11.0	2	
11	41	41-2	樋口 純裕	1	1	1	1	3	1	1	1	4	6	4	4	4	8	8.5			
20	13	13-1	石山 晃	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	1	2.5	16.0	3	
20	13	13-2	時長 武史	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	4	7	4	13	13.5			
9	1	1-1	杉本 怜	1	1	1	1	1	1	1	2	4	5	4	5	4	7	7.0	22.0	4	
9	1	1-2	岡部 一成	1	1	1	3	3	1	1	1	3	5	4	8	6	15	15.0			
10	3	3-1	長谷川 慎平	1	1	1	1	2	2	2	2	4	6	4	6	4	10	10.0	23.5	5	
10	3	3-2	藤原 佑樹	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	4	7	4	13	13.5			
17	12	12-1	羽織田 直人	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	1	2.5	27.5	6	
17	12	12-2	藤原 健汰	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	4	25	25.0			
14	21	21-1	大橋 征弘	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	4	7	4	21	21.0	32.0	7	
14	21	21-2	藤井 快	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	4	5	4	11	11.0			
7	17	17-1	尾形 昌弥	1	1	1	5	3	1	1	1	1	1	3	7	3	5	27	27.0	33.0	8
7	17	17-2	中嶋 涉	1	1	2	2	1	1	1	1	4	5	4	5	4	6	6.0			
5	44	44-1	佐藤 貴洋	1	1	4	4	1	3	1	1	3	8	4	7	4	16	16.0	35.0	9	
5	44	44-2	佐藤 秀一	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3	4	19	19.0			
1	42	42-1	林 雷明	1	1	1	1	1	2	1	1	4	6	4	4	4	8	8.5	39.5	10	
1	42	42-2	松尾 雅彦	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	31	31.0			
15	18	18-1	橋場 友祐	1	1	1	3	1	1	1	1	3	3	4	6	4	12	12.0	45.0	11	
15	18	18-2	山本 凌	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	33	33.0			
12	31	31-1	中村 隆寛	1	1	3	3	1	1	1	1	2	4	3	5	3	22	22.0	45.0	12	
12	31	31-2	伊藤 謙	1	1	1	1	1	3	3	1	2	4	2	4	3	23	23.0			
6	24	24-1	水口 勝登	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	6	4	17	17.5	46.0	13	
6	24	24-2	鈴木 隆将	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	28	28.5			
2	27	27-1	八木 冬馬	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	4	5	20	20.0	50.0	14	
2	27	27-2	久下 陸弥	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	30	30.0			
16	35	35-1	神鳥 悠輝	1	1	4	4	2	2	2	2	5	4	10	4	8	24	24.0	50.0	15	
16	35	35-2	貞広 亮太	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	6	4	7	26	26.0		
18	26	26-1	澤本 拓八	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	3	36	36.0	53.5	16	
18	26	26-2	西浦 友壽	1	1	1	3	3	1	1	1	2	2	4	6	4	17	17.5			
4	43	43-1	田中 直洋	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	28	28.5	62.5	17	
4	43	43-2	石松 将武	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	3	4	34	34.0		
3	4	4-1	村上 洸弥	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	4	4	32	32.0	69.0	18	
3	4	4-2	菊池 駿一	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	2	3	4	37	37.0		
8	37	37-1	鎌田 信平	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	1	3	10	35	35.0	75.0	19
8	37	37-2	丸尾 直輝	X	X	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	0	40	40.0			
13	39	39-1	武正 知久	X	4	1	1	1	1	1	1	0	0	1	4	2	8	39	39.0	77.0	20
13	39	39-2	宮崎 智弘	X	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	2	4	38	38.0		

第63回国民体育大会山岳競技会
少年男子ボルダリング決勝

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係

No	都道府 県名	ゼッケン No	氏名	決勝Round												予選 順位					
				P1			P2			P3			P4				個人 順位	平均 順位	順位 合計	チーム 順位	
				TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1	B2						
14	神奈川県	14-1	新田 龍海	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	6.0	1	1
14	神奈川県	14-2	山内 祐樹	1	1	1	2	2	2	3	1	1	1	X	X	1	5	5.0	8.0	2	4
1	北海道	1-1	杉本 怜	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2.0	8.0	2	4
1	北海道	1-2	岡部 一成	1	1	1	X	5	3	3	1	1	1	X	X	X	6	6.0	10.0	3	5
3	岩手	3-1	長谷川 慎平	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	X	2	2	3	3.0	10.0	3	5
3	岩手	3-2	藤原 佑樹	2	1	1	3	3	3	X	3	3	X	X	X	7	7	7.0	12.0	4	8
17	長野	17-1	尾形 昌弥	1	1	1	X	X	12	X	2	2	X	X	X	8	8	8.0	12.0	4	8
17	長野	17-2	中嶋 渉	1	1	1	1	1	1	1	1	1	X	X	3	3	4	4.0	15.0	5	3
13	東京	13-1	石山 晃	2	2	1	2	2	2							2	6	6.0	15.0	5	3
13	東京	13-2	時長 武史	2	2	1	3	3	3							2	9	9.0	18.5	6	2
41	佐賀	41-1	尾崎 真人	1	1	1	X	X	2							1	11	11.5	18.5	6	2
41	佐賀	41-2	樋口 純裕	1	1	1	3	3	3							2	7	7.0	25.5	7	6
12	千葉	12-1	羽鎌田 直人	1	1	1	X	X	X							1	14	14.0	25.5	7	6
12	千葉	12-2	藤原 健汰	1	1	1	X	X	2							1	11	11.5	31.0	8	7
21	静岡	21-1	大橋 征弘	2	2	1	X	2	2							1	15	15.0	31.0	8	7
21	静岡	21-2	藤井 快	X	X	1	X	X	1							0	16	16.0	31.0	8	7

※5位以下は、決勝R①の平均順位

第63回国民体育大会山岳競技会
少年女子リード予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

完登 42

スタート順	県 No	都道府県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド付記	個人順位	平均順位	順位合計	チーム順位
					高度					
18	35	山口	35 - 1	重永 織江	39		4	4.5	6.5	1
18	35	山口	35 - 2	大田 理紗	Top		1	2.0		
13	18	富山	18 - 1	嶋田 真琴	37	-	8	9.0	11.0	2
13	18	富山	18 - 2	内山 葵	Top		1	2.0		
17	31	鳥取	31 - 1	小塩 紗生	39		4	4.5	15.5	3
17	31	鳥取	31 - 2	泉 香奈子	36		11	11.0		
15	10	群馬	10 - 1	長谷川 美玲	Top		1	2.0	17.0	4
15	10	群馬	10 - 2	大澤 咲子	35	+	15	15.0		
3	44	大分	44 - 1	五十嵐 純	37	-	8	9.0	22.0	5
3	44	大分	44 - 2	志賀 愛	36	-	12	13.0		
7	12	千葉	12 - 1	山田 明香	38		7	7.0	25.0	6
7	12	千葉	12 - 2	錦織 春香	34	-	18	18.0		
8	16	新潟	16 - 1	塚本 菜々香	37	-	8	9.0	29.0	7
8	16	新潟	16 - 2	五十嵐 妹子	32	+	20	20.0		
9	15	山梨	15 - 1	縄重 未来	39	-	6	6.0	34.0	8
9	15	山梨	15 - 2	鈴木 舞	22	+	28	28.0		
4	25	滋賀	25 - 1	大西 光	36	-	12	13.0	42.0	9
4	25	滋賀	25 - 2	義川 香	21		29	29.0		
6	1	北海道	1 - 1	松本 郁恵	35		16	16.0	42.0	10
6	1	北海道	1 - 2	四ツ屋 美歩	29		26	26.0		
14	4	宮城	4 - 1	伊藤 香奈	36	-	12	13.0	43.0	11
14	4	宮城	4 - 2	西村 真実	17	-	30	30.0		
10	42	長崎	42 - 1	児玉 幸子	31	+	21	21.5	45.0	12
10	42	長崎	42 - 2	古川 文香	31	-	23	23.5		
5	26	京都	26 - 1	木村 聖芽	31	-	23	23.5	48.5	13
5	26	京都	26 - 2	坂本 朱里	30.5		25	25.0		
2	39	高知	39 - 1	中山 絵梨香	33		19	19.0	51.0	14
2	39	高知	39 - 2	岩原 史織	15	+	32	32.0		
16	43	熊本	43 - 1	池上 麻里	31	+	21	21.5	52.5	15
16	43	熊本	43 - 2	古賀 萌華	16	-	31	31.0		
11	21	静岡	21 - 1	佐野 珠藻	2		36	36.0	53.0	16
11	21	静岡	21 - 2	山田 紗弓	34	+	17	17.0		
1	5	秋田	5 - 1	大石 瑠子	27	-	27	27.0	60.0	17
1	5	秋田	5 - 2	渡部 実唯子	10	+	33	33.0		
12	36	香川	36 - 1	岡田 花菜	10		34	34.0	69.0	18
12	36	香川	36 - 2	武内 悠	8		35	35.0		

第63回国民体育大会山岳競技会
少年女子リード決勝

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係
			

完登 42

スタート順	県 No	都道府県名	ゼッケン No	氏名	到達	ホールド	個人順位	平均順位	順位合計	決勝順位	予選順位
					高度	付記					
7	18	富山	18 - 1	嶋田 真琴	29	-	6	6.5	9.5	1	2
7	18	富山	18 - 2	内山 葵	40	+	3	3.0			
8	35	山口	35 - 1	重永 織江	24		10	11.0	12.0	2	1
8	35	山口	35 - 2	大田 理紗	41	+	1	1.0			
4	44	大分	44 - 1	五十嵐 純	29	-	6	6.5	15.0	3	5
4	44	大分	44 - 2	志賀 愛	24	+	8	8.5			
2	16	新潟	16 - 1	塚本 菜々香	24		10	11.0	16.0	4	7
2	16	新潟	16 - 2	五十嵐 妹子	30		5	5.0			
5	10	群馬	10 - 1	長谷川 美玲	41		2	2.0	16.5	5	4
5	10	群馬	10 - 2	大澤 咲子	20		14	14.5			
6	31	鳥取	31 - 1	小塩 紗生	21		13	13.0	17.0	6	3
6	31	鳥取	31 - 2	泉 香奈子	32	+	4	4.0			
1	15	山梨	15 - 1	縄重 未来	24	+	8	8.5	24.5	7	8
1	15	山梨	15 - 2	鈴木 舞	12		16	16.0			
3	12	千葉	12 - 1	山田 明香	24		10	11.0	25.5	8	6
3	12	千葉	12 - 2	錦織 春香	20		14	14.5			

第63回国民体育大会山岳競技会
少年女子ボルダリング予選

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係

スタート順	都道府県名	ゼッケンNo	氏名	P1			P2			P3			P4		TOP	I	B1	B1	B2	B2	個人順位	平均順位	順位合計	予一ム順位	
				TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1											B2
18	千葉	12-	山田 明香	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	4	5	4	5	4	4	5	5.0	13.5	1	
18	千葉	12-	錦織 春香	1	1	1	1	1	1	X	1	1	1	1	3	3	4	4	4	4	8	8.5			
15	新潟	16-	塚本 菜々香	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	1	2.0	14.0	2	
15	新潟	16-	五十嵐 妹子	1	1	1	1	1	1	X	X	1	1	1	3	3	3	3	3	4	12	12.0			
13	群馬	10-	長谷川 美鈴	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	1	2.0	17.0	3	
13	群馬	10-	大澤 咲子	1	1	1	1	1	1	X	1	1	1	2	2	4	4	4	4	4	14	15.0			
6	富山	18-	嶋田 真琴	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	1	2.0	17.0	3	
6	富山	18-	内山 葵	1	1	1	1	1	1	X	1	1	1	2	2	4	4	4	4	4	14	15.0			
12	山口	35-	重永 織江	1	1	1	1	1	1	X	1	1	1	2	2	4	4	4	4	4	17	17.0			
12	山口	35-	大田 理紗	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	4	5	4	5	4	5	6	6.0			
9	鳥取	31-	小塩 紗生	1	1	1	1	1	1	X	2	1	1	1	3	4	4	4	4	4	13	13.0			
9	鳥取	31-	泉 香奈子	1	1	1	1	1	1	X	3	1	1	1	3	4	6	4	4	4	11	11.0			
3	山梨	15-	縄重 未来	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	5	4	4	4	4	4	4.0			
3	山梨	15-	鈴木 舞	1	1	1	2	1	1	X	X	1	1	X	2	3	2	2	4	4	24	24.0			
16	大分	44-	五十嵐 純	1	1	1	1	1	1	3	3	1	3	2	4	8	4	7	4	4	7	7.0			
16	大分	44-	志賀 愛	2	2	2	1	1	1	X	X	1	X	2	2	3	3	5	4	5	23	23.0			
8	北海道	1-	松本 郁恵	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	4	4	4	4	8	8.5			
8	北海道	1-	四ツ屋 美歩	X	1	1	X	X	X	X	2	X	1	1	0	0	2	2	3	4	32	32.0			
2	静岡	21-	佐野 珠藻	1	1	1	2	2	2	X	X	X	1	1	2	3	4	3	4	4	22	22.0			
2	静岡	21-	山田 紗弓	1	1	1	1	1	1	X	X	1	1	2	2	3	3	4	4	4	19	19.5			
5	長崎	42-	児玉 幸子	X	1	1	X	X	3	X	X	1	X	X	0	0	1	1	4	6	33	33.0			
5	長崎	42-	古川 文香	1	1	1	1	1	1	X	2	1	1	1	3	3	4	5	4	4	10	10.0			
11	宮城	4-	伊藤 香奈	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	4	4	4	4	14	15.0			
11	宮城	4-	西村 真実	X	1	1	2	2	2	X	X	1	1	1	2	2	3	4	4	5	31	31.0			
4	滋賀	25-	大西 光	1	1	1	1	1	1	X	2	1	X	X	1	2	3	4	4	4	21	21.0			
4	滋賀	25-	義川 香	4	1	1	1	1	1	X	X	1	X	X	2	5	2	2	3	3	25	25.0			
14	京都	26-	木村 聖芽	1	1	1	X	1	1	X	X	1	X	X	1	1	2	2	4	4	27	27.0			
14	京都	26-	坂本 朱里	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3	4	4	4	19	19.5			
7	高知	39-	中山 絵梨香	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	6	4	4	18	18.0			
7	高知	39-	岩原 史織	1	1	1	X	X	X	X	1	1	X	X	1	1	1	1	1	2	30	30.0			
10	熊本	43-	池上 麻里	1	1	1	X	1	1	X	X	2	X	4	1	1	3	6	4	5	26	26.0			
10	熊本	43-	古賀 萌華	1	1	1	X	X	1	X	X	X	X	5	1	1	1	1	1	3	29	29.0			
17	秋田	5-	大石 瑠子	1	1	1	X	X	2	X	X	1	X	X	1	1	1	1	1	4	28	28.0			
17	秋田	5-	渡部 実唯子	X	1	1	X	X	X	X	X	X	X	X	0	0	1	1	1	1	34	34.0			
1	香川	36-	岡田 花菜	X	3	3	X	X	X	X	X	X	X	X	0	0	1	3	1	3	35	35.0			
1	香川	36-	武内 悠	X	X	2	X	X	X	X	X	X	X	X	0	0	0	0	0	1	2	36	36.0		

第63回国民体育大会山岳競技会
少年女子ボルダリング決勝

審判長	競技部長	主任審判員	得点集計係

No	都道府県名	ゼッケンNo	氏名	決勝Round																予選順位					
				P1		P2		P3		P4		TOP	T at	B1 at	B1 at	B2 at	B2 at	個人順位	平均順位		順位合計	チーム順位			
				TOP	B1	B2	TOP	B1	B2	TOP	B1												B2	TOP	B1
35	山口	35-1	重永 織江	1	1	1	X	2	2	1	1	1	X	1	2	3	4	4	5	4	4.0	5.0	1	5	
35	山口	35-2	大田 理波	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	4	4	1	1.0			
12	千葉	12-1	山田 明香	1	1	1	3	2	1	1	1	1	X	1	3	5	4	4	4	3	3.0	8.0	2	1	
12	千葉	12-2	錦織 春香	1	1	1	X	2	1	1	1	X	X	2	2	3	4	3	3	5	5.0				
15	山梨	15-1	縄重 未来	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	4	5	4	5	4	2	2.0	10.0	3	7	
15	山梨	15-2	鈴木 舞	1	1	1	X	X	X	X	X	X	X	1	1	1	1	2	2	8	8.0				
18	富山	18-1	嶋田 真琴	1	1	1	X	3	2	1	1	X	X	1	2	3	5	4	5	6	6.0	13.0	4	3	
18	富山	18-2	内山 葵	1	1	1	X	1	1	X	1	X	X	1	1	3	3	4	4	7	7.0				
10	群馬	10-1	長谷川 美玲	1	1	1	1	1	1						2	2	2	2	2	1	2.0	17.0	5	3	
10	群馬	10-2	大澤 咲子	X	1	1	X	X	1						0	0	1	1	2	15	15.0				
31	鳥取	31-1	小塩 紗生	1	1	1	X	2	1					1	1	2	3	2	7	7.5	19.0	6	6		
31	鳥取	31-2	泉 香奈子	1	1	1	X	X	1					1	1	1	1	2	11	11.5					
44	大分	44-1	五十嵐 純	1	1	1	X	1	1					1	1	2	2	2	5	5.5	21.5	7	8		
44	大分	44-2	志賀 愛	X	1	1	X	X	X					0	0	1	1	1	1	16	16.0				
16	新潟	16-1	塚本 菜々香	1	1	1	X	X	2					1	1	1	1	2	13	13.0	24.5	8	2		
16	新潟	16-2	五十嵐 妹子	1	1	1	X	X	1					1	1	1	1	2	11	11.5					

※5位以下は、決勝R①の平均順位

4 運 營 各 部 報 告

総務部

総務部長 波多野英哲

第63回国民体育大会「チャレンジ!おおいた国体」の山岳競技会の運営が円滑に行われるように、竹田市実行委員会との連携のもと、その対応に努めた。

役員編成

本大会から、これまでの縦走競技からボルダリング競技に競技種目に変更されるとともに、審判員のみならず大会運営に携わるものについても、資格要件が変更された。このため、役員編成にあたっては、これらの点に配慮しつつ役員の選任等を行った。

しかしながら、本連盟も会員の高齢化が進んでいることから、役員養成の担当者は、人選のみならず、規定役員数の確保についても苦労した。

なお、役員として大会運営に携われた方々はもとより、役員として快く送り出していただいた各職場や家族の皆様には深く感謝申し上げますところでは。

今後、規定役員数については、各競技団体の実情に合わせた柔軟な対応や見直しが望まれる。

各種会議等

各種会議等の開催状況については、別紙掲載のとおりである。

また、大会運営に関する詳細事項を検証・検討する基準会議については、費用の問題もあり、これまでの4回から2回に開催回数を減らしたため、当初は大会運営の細部において支障を来すことが危惧されたが、特に問題を生じさせることなく大会を終了することができた。簡素化を図る観点からも、今後も引き続き、会議等の必要性についての検証を行う中で対応することが望まれる。

式典

種目別表彰式及び総合表彰式の設営・筆耕・進行は、竹田市実行委員会にお願いした。

また、当初案では、種目別表彰式を各競技会場で行う予定にしていたが、ルートセットや競技進行の時間を検証した結果、別に表彰場所を設け行うこととした。これらのことにより、スムーズな表彰式を行うことができた。竹田市実行委員会の方々には、大変お世話になり深く感謝申し上げますところである。

トロフィー返還式

- ・最初の種目（成年男子リード競技）のオブザベーション前に、ウォール前で実施した。
- ・内容としては、(1)開式通告 (2)国旗・大会旗・日山協旗等儀礼 (3)大会会長トロフィー返還 (4)大会会長あいさつ (5)閉式通告ならびに競技開始宣言

種目別表彰式

- ・地元（竹田市）実行委員会が主担当となり、総務の表彰総括係と連携を取りながら実施した。今回は、ボルダリング会場の玄関前に簡易のステージを作り行った。
- ・内容としては、(1)開式通告 (2)講評および成績発表 (3)表彰 (4)完登賞表彰 (5)写真撮影 (6)閉式通告

総合表彰式

- ・地元（竹田市）実行委員会が主担当となり、総務の表彰総括係と連携を取りながら実施した。
- ・内容としては、(1)開式通告 (2)審判長講評 (3)成績発表 (4)表彰状授与 (5)大会会長トロフィー授与 (6)競技会会長あいさつ (7)歓送のことば (8)国旗・大会旗・日山協旗等儀礼 (9)競技会終了宣言 (10)感謝状贈呈 (11)日山協旗引き継ぎ (12)次期開催地あ

成績表配布

成績表は、これまでの大会同様、選手団の宿舎や総合表彰式の会場で選手団個々に手渡し配布を行った。しかしながら、本大会では、大会本部のある競技会場と選手団宿舎が離れていた上、選手団宿舎が5箇所に分散するという状況であったため、競技第1日目と2日目の配布担当者は相当の苦労を味わうことになった。また、最終成績表にあつては、最終競技終了時間と総合表彰式までの間が十分取れない状況であったため、最終成績表の綴じ込みは時間との戦いとなったが、従事者の努力により事なきを得た。しかしながら、少なくとも1日目、2日目の成績発表については、宿舎に成績表を掲示し、選手団個々への手渡し配布は見合わせるようにすべきであったと思うことから、後催県においては、開催地の実情に合わせた簡素で効率的な方法を選択することが望まれる。

競 技 部

競技部長 吉野 眞治

総 括

競技部は、競技進行の把握や管理、競技の得点集計や記録管理の業務を行なったが、医療救護や通信といった競技進行に関わる専門部署をも含めて報告をとりまとめた。

全体総括としては、競技はほぼスケジュールどおりに管理運営され成功裏に実施された。これは、担当者各自の高い責任感と多数回の事前講習会開催での習得により、競技部各セクションの役割や連携が、ほぼ目論見どおりに成し遂げられた成果といえる。また、競技管理機器・通信機器や得点集計機器などのハード器具もほぼ予定通りの機能を果たした。

以下に、主要なセクション毎に気がついたコメントをもって競技部の報告とする。

競技の円滑な進行管理

選手受付から競技終了後の成績とりまとめまでが管理すべき役割であった。

- ・ 使用禁止機器管理

選手受付時に預かり競技終了後に返却としたが、監督預かりの撮影機器の返却タイミングについては、その県の競技スタート直前へと変更した。

- ・ 競技別進行管理、ビデオ記録や観客用計時

ボルダリング・リードの競技進行と密接に関係し、実際の指示も現場から受けていることから、この二競技セクションの組織体制の中に組み込むべきであろう。

- ・ 得点入力・集計

リードの得点入力は間近にある本部で行い、ボルダリングはその会場で行なった。審判員からの得点表の正確な入力と点検では、ボルダリングは点数が多いのでより慎重な入力管理が必要である。得点集計ソフトは完成されており正確に稼働したが、各段階での成績の最終的なチェックは人海で照らし合わせて行なうことから、ここに時間と集中力が要求された。

- ・ 競技進行アナウンス

二競技それぞれにアナウンサーをつけたが、アナウンサーの役割は大きく、大変な部署であった。山岳競技に未知の観客に対して各競技の説明を行ない、各県代表選手情報を取りまとめ、自らの言葉に直してアナウンスしなければならなかった。競技だけの進行アナウンスと捉えれば易しいが、競技の普及・アピールの観点から捉えると、もっと重要視されるべきセクションである。

- ・ そのほか競技中に対応した件

スタートリストは都道府県と名前しか書いていなかったため部署によっては使いづらいのでエクセルで作り直した。

審判用 : 到達高度を記入できる欄を作成。

ビデオ係用: 選手ごとの記録時間を記入できる欄を作成。

その他の所: 上記の2つも作成したが、何か書けるような備考欄を作成した。

事前に(と言っても大会初日の朝だが)この点に気づくことが出来たのはリハーサル大会(ジャパンカップ)が役に立ったと思う。配布した後で審判から右側だけのスタートリストと左側だけのスタートリストが出来ないかと言われたが、「できない」と断った。たぶんこれはビデオ係の人も思ったのではないだろうか。リハーサル大会(ジャパンカップ)ではこの様なものを、マジックを使って手作業で作ったが、今回は時間の関係で無理であった。

ビデオ係が記録したビデオは、記録時間を記入したスタートリストとともにテープを窓から我々に渡してくれた。受け取ったものはテーブルの上に置いていただけであった。1日目の競技が終わった後、主任審判が一人で全部のビデオテープにどれがどれかわかるようにシールを貼ってビデオテープの整理をしていた。2日目以降は得点集計係で対応した。本来はビデオ係の仕事だと。

医療救護部

医療救護部長 坂本 浩昭

事故報告

- ・ リード競技 救護活動を要する事故なし。
- ・ ボルダリング競技 救護活動2件
 - 1 種目種別: 少年女子(21-1) ボルダリング予選(10/3 9時15分)
 発生場所: 第4面 マット上
 発生状況: マットに落下したときに右肘関節を脱臼
 処 置: 本人の競技を中断し、担架で救護所に搬出。医師の診断と応急措置(整復)をしたあと救急車で搬送。病院で診断、治療(ギプス固定、内服鎮痛薬処方)後、大会本部の車で会場にもどる。
 そ の 他: 翌日のリード競技にはギプス固定の状態に参加。(健康チェック時に医師が問診し、競技にも医師が付き添う。ホールドにタッチしたあと下降、競技終了)
 - 2 種目種別: 成年男子(4-1) ボルダリング予選(10/4 12時30分)
 発生場所: 第4面 ボード上
 発生状況: 登はん中、上肢下肢が交叉し右肩の過剰加重となり右肩脱臼(自然に元に戻る、亜脱臼か)
 処 置: 本人の競技を中断し、救護所に歩いて移動。医師の診断と応急措置をしたあと救急車で搬送(救急車要請は不要と判断したが、病院からの指示で救急搬送)。病院で診断、治療(湿布、内服鎮痛剤処方)後、大会本部の車で会場にもどる。
 そ の 他: 翌日の決勝に参加し、競技を行った。(健康チェック時に医師が問診し、競技にも医師が付き添う。)

反省

- ・従来の山岳競技では内科的な疾患も多く出る可能性もあったが、競技種目変更により整形外科的な疾患にほぼ限られるようになったので、救護にあたる医師は整形外科が望ましい。
- ・救護所に救急車がスムーズに横付けされる配置、対策がのぞましい。観客等が多いと救急車が行動しにくい。
- ・今回医師2名でローテーションを組んで2名もしくは1名の常駐体制であったが、医師は1名常駐すれば事足りると思われる。
- ・健康チェック票で健康上の異常を申告しながら、出場を申し出た選手に医師がどのように対処するかを明確にする必要がある。また、医師の権限の明確化も必要。(医師の診察、出場禁止の進言、競技への付き添い等、競技規則と整合性を持たせながら明確にする)
- ・負傷した選手の医療救護活動の終了後(病院から復帰した後)の選手の健康状態の把握を中央総務から尋ねられたが、把握していなかった。把握の必要があるのなら対処方法を考えるべき。(今回、負傷者を病院へ付き添って搬送し、診察、処置を受けたあと会場までつれて戻った時点で救護活動を終えたが、翌朝の朝礼で、中央総務からその後の状態を聞かれたが、把握していなかった。その必要を考えていなかったなので、把握する方法を考えていなかったが、必要なら講ずべきか)
- ・緊急を要する負傷もあるので、無線だけでなく携帯電話等を利用した2系統の連絡体制も必要かもしれない。

輸送・宿泊部

輸送・宿泊部長 高井 征治

輸送

第63回国民体育大会山岳競技に参加する成年男子47チーム・成年女子18チーム・少年男子20チーム・少年女子18チームの選手・監督の競技期間中における宿舎～競技会場間の移動について、竹田市実行委員会と連携しバスによる輸送を実施した。

輸送バスの運行は、係員が各車両に添乗し随時進行状況を報告すると共に、降車場所から会場へ又会場から乗車場所へ選手・監督の誘導案内を行い、さらに緊急事態に備え連絡車両が随行した。

運行時間については、宿舎から競技会場間の試験運行の結果から片道の運行所要時間を40分に設定し競技会場の受付開始時間から逆算した時間を宿舎の出発時間とし、又競技終了後の出発時間については種別ごとの競技終了通告後60分以内とし出発時間を設定した。

競技第2日目以降についての運用として、予選の結果等を勘案して監督が計画輸送バスで移動しない場合の取り扱いとして、指定場所の駐車許可証を発行し自車での移動を許可する方法で対応した。

・輸送に関する意見等

競技終了後の輸送について、観戦、応援のため自由行動としたい等の申し出、抗議があつた。

・意見に対する処置

競技終了後、宿舎へ帰着するまでを計画輸送として配車計画したため対応できなかった。

・課題

計画輸送についての意見が選手・監督より多く寄せられており、選手・監督の要望や競技会場、宿舎の立地条件を考慮し柔軟に対応できる体制とすべきであった。

宿泊

選手団の宿舎を久住高原荘とその周辺の施設にまとめることにより輸送の円滑化を図り、宿泊現地本部を久住高原荘に設置し、競技役員2名による出発時の点呼、宿舎で昼食を摂る種別の選手監督へ弁当の配付を行うとともに、問い合わせ、案内等の対応にあたり夜間の緊急事態に備え2名体制で宿直を行った。

各種別、チームごとの宿泊の予約受付及び宿舎の部屋割り等については、大分県配宿センターが行い、昼食の弁当の調達及び引き換え等については竹田市実行委員会が行った。

・宿泊に関する意見等

一部の宿舎に温泉がない等の苦情があり久住高原荘に対応していただいた。
宿舎側からとして選手・監督の出発、帰着時間の関係で部屋のメンテ、清掃ができない等の意見があった。

大会の成功を
お祈り致します

トキめき新潟国体



5 競技会準備經過概要

チャレンジ！おおいた国体 山岳競技会 準備概要

年	月	競技施設関係	役員養成関係	諸会議	大会
H16 2004				第1回～第4回国体競技運営委員会[県岳連]	
H17 2005	4			12(日)第5回国体競技運営委員会[県岳連]	
	5			3(日)第6回国体競技運営委員会[県岳連]	
	6			12(日)第7回国体競技運営委員会[県岳連]	
	7			3(日)第8回国体競技運営委員会[県岳連]	
	8				
	9			4(日)第9回国体競技運営委員会[県岳連]	9/23(金)～24(土) 第1回ボルダリング ジャパンカップ大会[神戸]
	10				10/23(日)～25(火) 60国体 本大会(岡山) 視察
	11			3(木)第10回国体競技運営委員会[県岳連]	
H18 2006	1			9(日)第11回国体競技運営委員会[県岳連] 18(木) 63国体第1回正規視察	
	2				
	3				
	4			23(日)第12回国体競技運営委員会[県岳連]	
	5			20(日)第13回国体競技運営委員会[県岳連]	
	6				
	7			20(日)第14回国体競技運営委員会[県岳連]	
	8				
	9			20(日)第15回国体競技運営委員会[県岳連]	
	10				1(日)～3(火) 61国体 本大会(神戸) 視察
	11		25(土)～26(日) 第1回競技・運営役員養成講習会(大分市)	12(日)第16回国体競技運営委員会[県岳連]	
	12				23(金)～24(土) 第2回ボルダリング ジャパンカップ大会[加須]

H19 2007	1			8(日)第17回国体競技運営委員会[県岳連]	
	2		18(日) 競技役員養成講習会(大分市)	4(日)第18回国体競技運営委員会[県岳連]	
	3		3(土)~4(日) 九州ブロック研修会(宮崎県)	11(日)第19回国体競技運営委員会[県岳連]	
	4			1(日) 日山協国体委員総会 30(日)第20回国体競技運営委員会[県岳連]	
	5			20(日)第21回国体競技運営委員会[県岳連]	
	6			17(日)第22回国体競技運営委員会[県岳連]	9(土) 秋田リハーサル大会
	7	ボルダリング壁完成 (2基4面:床上げなし)		1(日) 第23回国体競技運営委員会[県岳連]	20(金)~22(日) 九州ブロック大会(宮崎)
	8	リード壁完成(練習用:1面)	4(土) ボルダリング教室(竹田高校) 25(土)~26(日) 日山協主催 クライミング審判員養成講習会(竹田)	4(土)第24回国体競技運営委員会[県岳連] 24(金)63国体第2回正規視察	
	9			2(日)第25回国体競技運営委員会[県岳連]	
	10	リード壁完成(2面)		8(日)第26回国体競技運営委員会[県岳連]	9/30(日)~10/2(火) 62国体 本大会(秋田) 視察
	11		23(金)~25(日) 競技・運営役員研修会 24(土) 競技補助員養成講習会	11(日)第27回国体競技運営委員会[県岳連]	
	12			9(日)第28回国体競技運営委員会[県岳連]	1(土)~2(日) 第3回ボルダリング ジャパンカップ大会(竹田)
H20 2008	1			14(日)第29回国体競技運営委員会[県岳連]	
	2			3(日)第30回国体競技運営委員会[県岳連]	
	3		1(土)~2(日) 九州ブロック研修会(竹田)	9(日)第31回国体競技運営委員会[県岳連]	
	4	ボルダリング壁(床上げ)完成	19(土)~20(日) 第1回基準会議	13(日)第32回国体競技運営委員会[県岳連]	
	5			6(日)第33回国体競技運営委員会[県岳連]	
	6		7(金)~9(日) 第2回基準会議	15(日)第34回国体競技運営委員会[県岳連]	8(土) リハーサル大会 8(土)~9(日) リード・ジャパンカップ大会
	7			6(日)第35回国体競技運営委員会[県岳連]	20(土)~21(日) 九州ブロック大会(竹田)
	8			3(日)第36回国体競技運営委員会[県岳連]	
	9		14(日) 本国体最終打合せ会議(竹田市)	7(日)第37回国体競技運営委員会[県岳連]	
	10	ボルダリング壁 解体・移設		13(日)第38回国体競技運営委員会[県岳連]	3(金)~5(日)本国体

その他の会議：第1回(H19.3.5)~第13回(H20.6.25) 63国体 山岳競技 専門委員会[竹田市実行委員会との打合せ会議]

